

幼保小の架け橋プログラム

「幼保小の架け橋プログラム」は何を目指すのか？

5歳～小1の2年間で「架け橋期」と位置づけ、
全ての子供に学びや生活の基盤を保障するため、
自治体のリーダーシップのもと、カリキュラム開発会議等、体制を整え、
架け橋期にふさわしいカリキュラムを作成・評価することで、
教育の充実・改善を目指す

「幼保小の架け橋プログラム」は何を目指すのか？ 全ての子供に学びや生活の基盤を育む

- 「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で**全ての子供に学びや生活の基盤を育めるように**することを目指すものです。

本プログラムは、架け橋期に求められる教育の内容等を改めて可視化したものであり、関係者の負担軽減に留意しつつ、**各地域や施設の創意工夫を生かした取組**が広がり深まっていくことを期待しています。

体制づくり

カリキュラム・教育方法の充実・改善

「幼保小の架け橋プログラム」

中央教育審議会での審議の経過

令和3年7月

中央教育審議会に「**幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会**」を設置

- ・幼児期・幼保小の接続期の質の向上について審議開始

令和4年3月

「**審議経過報告**」をとりまとめ

- ・5歳児～小学校1年生の2年間を「架け橋期」と位置づけ
- ・架け橋期におけるカリキュラム開発等を幼稚園、保育所、認定こども園、小学校等の関係者により進める など

令和5年2月

審議とりまとめ

学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について ～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～

令和5年2月27日 中央教育審議会初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会

(参考資料) 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き及び参考資料(初版) (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm)

- ・ 幼児期の教育は、**生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの**であり、**全ての子供に等しく機会を与えて育成**していくことが必要。 **幼児期の教育の重要性**
- ・ **幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期**であり、**小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要**。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要。 **幼児期の特性** **「架け橋期」の教育の重要性**
- ・ 一方、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続に比して様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でないため、**5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」**と称して焦点を当て、**0歳から18歳までの学びの連続性に配慮**しつつ、「架け橋期」の教育の充実を図り、**生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる**ことが重要。
- ・ 架け橋期の教育を充実するためには、幼保小はもとより、家庭、地域、関係団体、地方自治体など、**子供に関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働**することが必要。
- ・ 教育行政を所掌する文部科学省は、**こども家庭庁をはじめとする関係省庁と連携を図りながら**、家庭や地域の状況にかかわらず、**全ての子供が格差なく質の高い学びへと接続できるよう幼児期及び架け橋期の教育の質を保障**していくことが必要。 **連携・協働の必要性** **幼児期・「架け橋期」の教育の質保障の必要性**

これらを踏まえ、以下の方策を推進

1. 架け橋期の教育の充実

幼児教育施設と小学校は、3要領・指針[※]及び小学校学習指導要領に基づき、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが必要。 ※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

① 子供の発達の段階を見通した架け橋期の教育の充実 **幼** **小**

- ・ 幼児教育と小学校教育では、各教科等の区別の有無や内容・時間の設定など様々な違いを有することから、**幼保小が意識的に協働して「架け橋期」の教育を充実**
- ・ 幼児教育施設においては、**小学校教育を見通して「主体的・対話的で深い学び」等に向けた資質・能力を育み**、小学校においては、**幼児教育施設で生まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施**。特に、小学校の入学当初においては、小学校において主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期であり、幼児期に生まれた資質・能力が、低学年の各教科等における学習に円滑に接続するよう教育活動を実施

② 架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫によるPDCAサイクルの確立 **幼** **小**

- ・ **幼保小が協働して**、3要領・指針において幼児期の資質・能力が具体的に現れる姿として定められている「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」等を手掛かりとしながら、**架け橋期のカリキュラム[※]を作成**。小学校1年生の修了時期を中心に**共に振り返って**、**架け橋期の教育目標や日々の教育活動を評価し**、**幼保小それぞれの教育を充実**
※幼保小が協働して、期待する子供像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの
- ・ 幼保小の合同会議等を定期的開催するなど、**幼児教育施設と小学校の継続的な対話を確保**、コミュニティ・スクール等を活用し、**保護者や地域住民の参画を得る仕組みづくり**

2. 幼児教育の特性に関する社会や小学校等との認識の共有

幼児教育施設と小学校が、保護者や地域住民等の参画を得ながら、架け橋期の教育の充実を図るためには、幼児教育の特性について、認識の共有を図ることが必要。

① 幼児教育の特性に関する認識の共有 **幼** **小**

- ・ 幼児期の遊びを通じた学び[※]の特性に関する社会や小学校等との認識の共有が未だ十分ではないため、様々な研究や実践の成果に基づく知見を活用して幅広く伝え、**遊びを通じた学びの教育的意義や効果の共通認識を図る**
※幼児期は、子供が遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に様々な対象と直接関わりながら総合的に学んでいくとともに、遊びを通して思考を巡らし、想像力を発揮し、自分の体を使って、友達と様々なことを学んでいく

② ICTの活用による教育実践や子供の学びの見える化 **幼**

- ・ ICTを活用したドキュメンテーションやポートフォリオにより**日々の教育実践や子供の学びを「見える化」**し、先生の教育の意図等を併せて伝えることにより、幼児教育の特性や教育方針等について、**保護者や地域住民の理解を促進**
- ・ 「見える化」による保護者や地域住民との連携の**好事例等を収集・発信**し、幼児教育の特性に関する社会の認識を向上

3. 特別な配慮を必要とする子供や家庭への支援

障害のある子供や外国籍等の子供など、特別な配慮を必要とする子供や家庭への適切な支援が必要。

① 特別な配慮を必要とする子供と家庭のための幼保小の接続 **幼** **小**

- ・ 特別な配慮を必要とする子供の対応が増加しており、**幼児教育施設・小学校と、母子保健、福祉、医療等の関係機関との連携強化**により、切れ目ない支援を実施
- ・ 国や地方自治体において、障害のある子供や外国籍等の子供などの受入れに関する**研修プログラムを開発、研修資料や教材を作成**
- ・ 幼児教育施設は、**一人一人に応じた指導を重視する幼児教育のよさを生かしながら子供の実態に応じた適切な支援を実施**、小学校は、**引き継いで必要な支援を実施**

② 好事例の収集 **幼** **小**

- ・ 幼児教育施設や小学校における子供の多様性に配慮した教育の充実に関する**好事例等を収集・蓄積して活用**

4. 全ての子供に格差なく学びや生活の基盤を育むための支援

核家族化や地域の関わりの希薄化に伴い、家庭や地域の教育力が低下し、幼児教育施設の役割が一層重要。

① 幼児教育施設の教育機能と場の提供 **幼**

- ・ 0歳から5歳の未就園児も含め、様々な体験の機会が得られるよう、**幼児教育施設が有する専門的な知見や場を地域に提供し、様々な子供の学びの場への参加を推進**
- ・ 幼児教育施設において、保護者の幼児教育に対する理解を深めるとともに、親子登園や相談事業、一時預かり事業等の**子育て支援を充実**

② 全ての子供のウェルビーイング[※]を保障するカリキュラムの実現 **幼** **小**

- ・ **全ての子供のウェルビーイングを高める**観点から、教育課程の編成^{※※}や指導計画の作成、実施や評価、改善等

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念

※※保育所は「全体的な計画」、幼保連携型認定こども園は「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」の作成

5. 教育の質を保障するために必要な体制等

設置者や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上や幼保小の接続等の取組を一体的に推進する体制が必要。また、幼児教育施設における人材確保や勤務環境の改善等が必要。

① 地方自治体における推進体制の構築 **幼** **小**

- ・ 地方自治体において、**幼保小の担当部局の連携・協働や幼保の担当部局の一元化、幼児教育センターの設置・活用や幼児教育アドバイザーの配置等を推進**

② 架け橋期の教育の質保障のために必要な人材育成等 **幼** **小**

- ・ 幼保小に対して専門的な指導・助言等を行う**架け橋期のコーディネーターや幼児教育アドバイザーを育成、幼保小接続や生活科を担当する指導主事の配置・指導力の向上**
- ・ **幼児教育施設や小学校の管理職や先生の研修を充実**
- ・ 架け橋期のカリキュラムや研修等を開発・実施する「**幼保小の架け橋プログラム**」を推進

③ 幼児期の教育の質保障のために必要な人材確保・定着等 **幼**

- ・ 国において、**処遇改善等の必要な施策を引き続き実施**
- ・ 地方自治体において、**総合的な人材確保策を推進**
- ・ 幼児教育施設において、**管理職等がマネジメント能力やリーダーシップを発揮するための研修を充実**
心理や福祉、障害等の専門的知見を有する者を積極的に活用
働き方改革を推進するため、**ICT環境の整備を推進**
- ・ **事故等の発生・再発防止のための取組を徹底**

6. 教育の質を保障するために必要な調査研究等

幼児教育や幼保小の接続の分野について、データやエビデンスに基づく政策形成が必要。

① 幼保小接続期の教育に関する調査研究 **幼** **小**

- ・ 国において、**架け橋期のカリキュラムに基づく評価方法**や、諸外国における子供の多様性を尊重した幼保小の接続期の具体的支援や体制の構築について、調査研究を推進

② 幼児期の教育に関する調査研究 **幼**

- ・ 国立教育政策研究所幼児教育研究センター、大学、地方自治体、幼児教育関係団体、民間研究機関等からなる**国内外の研究ネットワークを構築**
- ・ 質の高い幼児教育とは何かを明らかにするため、国のプロジェクトとして、**大規模な長期縦断調査を実施**
- ・ **日本独自の質評価指標の開発や園内研修等において活用しやすい質評価指標の開発を推進**

- 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、全ての子供に等しく機会を与えて育成していくことが必要。
- 幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要。
- 一方、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続に比して様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でないため、5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と称して焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、「架け橋期」の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要。
- 架け橋期の教育を充実するためには、幼保小はもとより、家庭、地域、関係団体、地方自治体など、子供に関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働することが必要。
- 教育行政を所掌する文部科学省は、こども家庭庁をはじめとする関係省庁と連携を図りながら、家庭や地域の状況にかかわらず、全ての子供が格差なく質の高い学びへと接続できるよう幼児期及び架け橋期の教育の質を保障していくことが必要。

これからの幼保小接続 ～ 幼保小の架け橋プログラム ～

子供たちにしっかりと
学びの基盤を育む!

	これまで	これから
目的	小学校への順応	学びの連続
内容	交流活動	カリキュラム編成
期間	数か月	2年(架け橋期)
実施単位	施設単位	地域単位

スタートカリキュラム

いわゆる
アプローチカリキュラム

カリキュラム

体制

幼保小の架け橋プログラムの実施について

○幼保小の架け橋期の教育の充実を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」を実施するため、幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）と参考資料（初版）を作成

○令和4年度から3か年程度を念頭に、『全国的な架け橋の充実』と『モデル地域における先進事例の実践』を並行して推進

カリキュラム・教育方法
の充実・改善

○「幼保小の架け橋プログラム」のねらいは次のとおり

- ・幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、**カリキュラム・教育方法の充実・改善**にあたることを推進
- ・3要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、**教育方法の改善**に生かしていくことができる手立てを普及
- ・架け橋期に園の先生が行っている環境の構成や子供への関わり方に関する工夫を**見える化**し、**家庭や地域にも普及** など

地域における体制のイメージ

自治体：地域の全関係機関の参画による「幼保小の架け橋期のカリキュラム」の開発、実施、評価・改善

○架け橋期のカリキュラム開発会議

【構成員】

- ・幼稚園、保育所、認定こども園、小学校
 - ・教育委員会、子育て担当部局
 - ・教員等養成や研修に関わる大学や専門学校
 - ・保護者や地域の関係者
 - ・架け橋期のコーディネーター（有識者）
- ・幼保小の関係団体
・有識者
- 等

幼稚園関係団体
保育所関係団体
認定こども園関係団体
小学校関係団体
※団体間の連携の強化、団体主催の研修や会議を活用した普及啓発

大学等
※取組への助言、養成・研修への反映等

家庭・地域
※子供の育ちの共有、各園・小学校の取組への協力

様々な立場から意見
や事例（動画や画像
を含む）を出し合っ
て話し合う



体制づくり

幼保小の架け橋プログラムの実施に
向けての手引き（初版）

令和4年3月31日
文部科学省

※開発会議、園・学校、自治体が本プログラムを進めていく上でのイメージについて、基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでの4つのフェーズから記載。自分たちが、今このフェーズにいるのかを判断し、次のフェーズに向けた取り組みのイメージ例も記載。

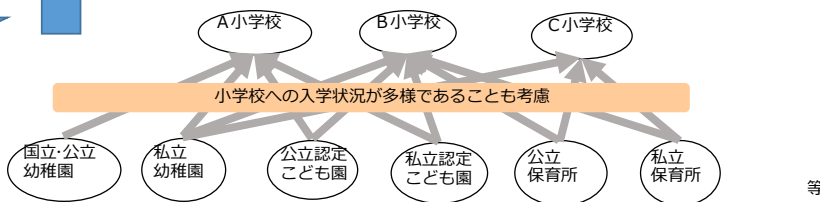
架け橋期の教育の質保障(国)

【検証体制】
・幼保小の接続期の教育の質的向上に関する検討チームのメンバー及び関係者等

【検証等の内容】
①実態調査
②改善事項の整理
取組推進

質保障

架け橋期のカリキュラムを踏まえ、教育課程編成・指導計画作成、実施
各園・小学校において、接続をコーディネートする者の明確化
持続的・発展的に実施する組織体制の構築



幼児教育推進体制等を通じ、事業の成果を全国の取組に普及・反映

全国的な取組の実施と併せて行う

幼保小の架け橋プログラム事業

令和4年度予算額 1.8億円（新規）

- ・幼保小の架け橋プログラムについて、モデル地域（全19自治体）において具体的に開発し実践
- ・モデル地域の成果検証の実施

幼保小の架け橋プログラムの取組のイメージ

令和4年度から3か年程度を念頭に、全国的な架け橋期の教育の充実とともに、モデル地域における先進事例の実践を並行して集中的に推進。

幼児教育推進体制等を通じた全国的な取組

- ・ 幼児教育推進体制のネットワークや、中央協議会、都道府県協議会、小学校担当の指導主事会議等の機会を活用し、幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）や参考資料（初版）等の趣旨・内容を的確に周知・普及。好事例を分析し、幼保小の関係者等に展開。
- ・ 各自治体における架け橋期のカリキュラム・教育方法の充実・改善を促進
- ・ 幼保小の連携体制や、幼児教育推進体制（幼児教育センター、幼児教育アドバイザー）の設置を促進
- ・ 幼保小の連携・接続に関する様々な自治体の取組を共有するプラットフォームづくり
- ・ 園・小学校や家庭・地域向けにも分かりやすいパンフレット（架け橋期の取組の意義・効果を含む）や動画の配信等の多様な発信

モデル地域における実践

- ・ 文部科学省委託事業「幼保小の架け橋プログラム事業」を活用し、架け橋期のカリキュラムの開発、実践、評価・改善 等

北海道、岐阜県、滋賀県、広島県、山口県、高知県、秋田県大館市、宮城県白石市、福島県西会津町、埼玉県川越市、神奈川県横浜市、静岡県袋井市、静岡県掛川市、京都府京都市、大阪府枚方市、大阪府箕面市、島根県津和野町、香川県高松市、大分県竹田市

中間成果報告

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm

※令和6年度に最終成果報告（予定）

自治体：地域の全関係機関の参画による「幼保小の架け橋期のカリキュラム」の開発、実施、評価・改善

○架け橋期のカリキュラム開発会議

【構成員】

- ・ 幼稚園、保育所、認定こども園、小学校
- ・ 教育委員会、子育て担当部局
- ・ 教員等養成や研修に関わる大学や専門学校
- ・ 保護者や地域の関係者
- ・ 架け橋期のコーディネーター（有識者）
- ・ 幼保小の関係団体
- ・ 有識者

【取組内容】

- ・ 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）、参考資料（初版）を活用しつつ、
- ・ 架け橋期のカリキュラムの開発
- ・ カリキュラムの実施に必要な研修、教材としての環境の活用等の開発
- ・ 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラムに必要な支援
- ・ 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みからの助言や各園・小学校の実践の検証結果を踏まえ改善 等

幼稚園関係団体
 保育所関係団体
 認定こども園関係団体
 小学校関係団体
 ※団体間の連携の強化、団体主催の研修や会議を活用した普及啓発

大学等
 ※取組への助言、養成・研修への反映等

家庭・地域
 ※子供の育ちの共有、各園・小学校の取組への協力



様々な立場から意見や事例（動画や画像を含む）を出し合って話し合う

- ・ 幼保小の教師が、気軽に話し合える関係づくりで必要なことは？
- ・ 全ての教師が関わり、継続的に取り組むためには？
- ・ 現場のモチベーションや創意工夫を引き出すには？
- ・ 現場を孤立させず、リーダーシップを発揮しつつ、適切な支援をしていくには？
- ・ 園と小学校でのこれまでの取組のよさを生かしながら取り組んでいくためには？
- ・ 成果を普及し、域内の幼保小の連携・接続を強化していくには？
- ・ まちづくりの中で、どう取り組んでいくか？
- ・ 子供たちの意見も取り入れながら進めていくには？
- ・ 幼保小の教師を目指す学生等のモチベーションを高め、その力を活用するには？



質保障

架け橋期の教育の質保障(国)

【検証体制】

- ・ 幼保小の接続期の教育の質的向上に関する検討チームのメンバー及び関係者 等

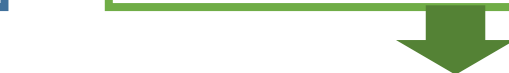
【検証等の内容】

①実態調査

- ・ モデル地域に対して実態調査を行い、各地域の成果検証
- ※実地調査の視点の例：
 - ・ 架け橋期のカリキュラムの効果（成果）
 - （教師の関わりの変化や意識の変化、子供の変化、保護者の変化、自治体担当者・架け橋期のコーディネーター・幼児教育アドバイザー等の変化 等）

②改善事項の整理、取組推進

- ・ 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）、参考資料（初版）、架け橋期の教育の質保障の枠組みに関する改善事項を整理し、全国展開に向けた取組推進



架け橋期のカリキュラムを踏まえ、教育課程編成・指導計画作成、実施
 各園・小学校において、接続をコーディネートする者の明確化
 持続的・発展的に実施する組織体制の構築

A小学校 B小学校 C小学校

小学校区・中学校区

小学校への入学状況が多様であることも考慮

国立・公立幼稚園 私立幼稚園 公立認定こども園 私立認定こども園 公立保育所 私立保育所

横のつながり

幼児教育推進体制等を通じ、事業の成果を全国の取組に普及・反映

- 架け橋期のカリキュラムについては、幼保小の教師が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるように工夫する。そして、幼保小の教師と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。
- 自治体や園・小学校での工夫を促しつつ、例えば、下記のような共通の視点を整理して示すことが考えられる。

		0歳～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～
共通の視点として考えられる項目例			4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
①期待する子供像					
②遊びや学びのプロセス					
③園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等					
④指導上の配慮事項	教師の関わり				
	子供の学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり(※)				
⑤子供の交流					
⑥家庭や地域との連携					

5歳児～小学校1年生（架け橋期。0～18歳の学びの連続性に配慮）について、

- ・共通の視点から考えてみよう
- ・既存の5歳児4月からの教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおける5歳児のカリキュラムの位置づけについても考えてみよう）
- ・既存の小学校1年生の教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムの位置づけについても考えてみよう）

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）

令和4年3月31日
文部科学省

(※) 以下「環境の構成・環境づくり」という。

進め方のイメージ

注：基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目安。実際には、地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら発展していく。

1年目

2年目

3年目

フェーズ1
基盤づくり

フェーズ2
検討・開発

フェーズ3
実施・検証

フェーズ4
改善・発展サイクルの定着

○架け橋期のカリキュラム開発会議における準備

- ・ 構成員の選定と目指す方向性の共有
- ・ 地域の実態の把握（開発会議は自治体に設置）

○架け橋期のカリキュラム開発会議における検討・開発

- ・ 方針の検討・決定、開発への支援
- ・ 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携開始（モデル地域対象）

○架け橋期のカリキュラム開発会議による実施の検証

- ・ 実施状況の把握・検証と支援
- ・ 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携推進（モデル地域対象）

○持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム開発会議の運営

- ・ 方針の改善・発展と支援
- ・ 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携強化（モデル地域対象）

カリキュラム作成

○接続を見通し、各園・小学校で教育課程編成・指導計画作成

- ・ 園・小学校での活動の共有
- ・ 子供の交流

○架け橋期のカリキュラムの検討・開発

- ・ 共通の視点をもとに内容の検討・開発
- ・ 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の共通性の理解
- ・ 子供の交流の推進

○架け橋期のカリキュラムの実施・検証

- ・ 園・小学校において教育課程編成・指導計画作成、実施・検証
- ・ 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用
- ・ 子供の交流の充実（子供の自発的な交流等）

○持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム

- ・ 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム
- ・ 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用の充実
- ・ 持続的・発展的な子供の交流実施（子供の自発的な交流等）

○各園・小学校での体制

- ・ 連携窓口の明確化
- ・ 自園・自校の教師への意識啓発と参画

○幼保小間の体制

- ・ 幼保小の合同会議の設置
- ・ 相互の教育の内容や方法に関する理解の共有

○幼保小の協働実施の体制

- ・ 幼保小の合同会議の充実
- ・ 相互の教育の内容や方法に関する理解の深化

○持続可能な体制

- ・ 幼保小の合同会議の定着
- ・ 相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・発展

体制づくり

○連携強化への支援

- ・ 研修の実施（幼保小合同研修等）
- ・ 自治体内の関係部局との連携

○接続に向けた支援

- ・ 研修の推進、研修教材の開発
- ・ 関係機関との連携を深め、園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネート

○幼保小の協働実施の支援

- ・ 研修の充実、研修教材の活用
- ・ 実施上のニーズの把握と支援
- ・ 園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの充実

○持続的・発展的な取組を支える支援の定着

- ・ 研修の改善・発展、研修教材の改善・発展
- ・ 必要な支援策の改善・発展
- ・ 園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの改善・発展

架け橋期のカリキュラム

実施に必要なこと

園・小学校での具体化の進め方

基盤づくりが重要!

架け橋期のカリキュラムについて、園・小学校での具体化の進め方（各フェーズ）のイメージ

具体化

【基盤づくり（フェーズ1）】（接続を見通し、各園・小学校で教育課程編成・指導計画作成）

①園・小学校での活動の共有

カリキュラム作成

- ・園長・校長間や担任間での関係をつくる
- ・どのようなねらいでどのようなことをしているのかを共有する
- ・子供たちがどのような流れ（1日、月、年間）で生活しているのかを共有する

子供の交流

相互理解

②子供の交流

- ・まずは行事などの機会にやってみる

等

【検討・開発（フェーズ2）】（検討・開発）

①共通の視点をもとに内容の検討・開発

カリキュラム作成

- ・架け橋期のカリキュラムの開発における工夫の一例（3-(3)）、共通の視点から幼児教育と小学校教育がつながる工夫の一例（3-(4)）等も参考に共通の視点をもとに具体化していく

②人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の共通性の理解

教材としての環境

- ・人やものといった環境が有する、子供にとっての教育的価値に着目し、幼保小の教師が意見交換する
- ・上記を通して、互いに教材観を広げ深めていく

③子供の交流の推進

子供の交流

- ・幼児と児童の双方が、夢中になり学びがある活動とする
- ・幼児や児童の活動のねらいの共通理解、活動内容の把握
- ・幼保小での事後打ち合わせ（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、各教師が捉えた子供の姿や教師の関わりについて意見交換）

【実施・検証（フェーズ3）】（実施・検証）

カリキュラム作成

①園・小学校において教育課程編成・指導計画作成、実施・検証

- ・教育課程編成・指導計画作成を行い、さらに、共通の視点が保育や授業の場面でどのような指導上の配慮となって表れているのか相互理解を深める
- ・相互の教育の見方や子供の捉え方の変容等について意見交換する

②人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用

教材としての環境

- ・人やものといった環境が、子供の発達に応じてどのような教育的価値をもち、遊びや学習の中でどう活用するかについて一緒に考える

③子供の交流の充実

子供の交流

- ・指示が多過ぎたり、すぐに援助をしたりせず、子供同士の自発的な関わりが生まれるようにする
- ・活動前に、園・小学校での子供の姿を伝え合い、教師がどのような関わり方をするのかについて共通理解を図るとともに、活動後に一緒に振り返る

【改善・発展サイクルの定着（フェーズ4）】

（持続的・発展的）

①持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム

カリキュラム作成

- ・共通の視点等についても固定的に捉えすぎず、子供のウェルビーイングを高める視点から見直しをする

②人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用の充実

教材としての環境

- ・環境がもつ教育的価値について、幼保小の教師と一緒に教材研究を深め、教材開発をする

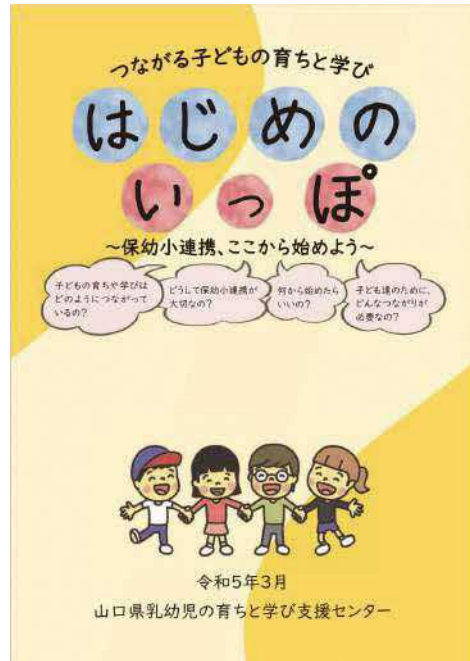
③持続的・発展的な子供の交流実施

子供の交流

- ・子供の自発的な交流を生み出すような充実した子供の交流を図る
- ・自園・自校内での共有や引継ぎ、複数名での担当とする
- ・蓄積したノウハウを整理し、話し合いのポイントを検討する

基盤づくり【フェーズ1】

①園・小学校での活動の共有 共有のきっかけづくりの例



山口県

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/154181.pdf>

園だよりやドキュメンテーション
を小学校に届ける

STEP 1 先生がつながる

子ども同士のつながりをつくるために、まずは先生がつながりましょう。

どうやってつながったらいいの？

こんなところからスタート！



STEP 2

子どもがつながる

子ども同士のつながりが、子どもの育ちと学びを豊かにします。

お互いに無理なく

まずは気軽にスタート！

いつもの活動や行事にちょっとプラス

おさんぽコースに小学校を入れたり…

お互いの行事を応援に行ったり…

廊下から授業参観したり…

学校に招待する手紙を書いて園に届けたり…

小学校のグラウンドで遊んだり…

「新しいことを始める」のではなく、いつもの活動や行事などにちょっとプラス！
保幼小の先生でアイデアを出し合ひましょう。

実施に必要なことにおける園・小学校での具体化の進め方（各フェーズ）のイメージ

具体化

【基盤づくり（フェーズ1）】（各園・小学校での体制）

①連携窓口の明確化

合同会議

- ・園長・校長の連携とリーダーシップ
- ・園内・校内の先生の業務分担の中に連携窓口を位置づけ、窓口の一元化を図る

・幼保小の先生が気軽に話し合えるよう、顔が見える機会を確保する 等

②自園・自校の先生への意識啓発と参画

相互理解

- ・園内研修・校内研修等において、先生全員で架け橋期のカリキュラムに取り組む意義やねらいを共有する

・連携窓口を通じて、授業参観や保育参観、先生の意見交換会などを行う 等

【検討・開発（フェーズ2）】（幼保小間の体制）

①幼保小合同会議の設置

合同会議

- ・構成員と所掌内容を決める（架け橋期のカリキュラム、幼保小の研究会、子供の交流活動等、幼保小の連携・接続に関することを所掌し、園・小学校の各担当者を構成員等）

・合同会議では、課題に関する協議を行うとともに、子供の変容や自園・自校の先生の意識の変容等も共有する

・合同会議を踏まえた、園内・小学校内体制整備（様々な委員会等との関係の明確化、開催日程の共有、全ての先生の理解と協力、個人に依存しない持続的な体制づくり） 等

②相互の教育の内容や方法に関する理解の共有

相互理解

- ・事例を取り上げ、架け橋期のカリキュラムの共通の視点から理解を深めていく
- ・設置者や施設類型、学校種における特有の表現やそれぞれにもつイメージが異なる表現（教育課程、指導、教材等）については、自治体による幼保小の合同研修での経験などを生かし、内容について具体例を示して説明する 等

【実施・検証（フェーズ3）】

（幼保小の協働実施の体制）

①幼保小合同会議の充実

合同会議

- ・これまでに蓄積された知見を整理し、相互理解を深める内容や方法について具体的に話し合う（例：参観後の意見交換はどのような視点が良いのか、園・小学校の教育課程や指導計画に関して相互の指導の内容や方法が生かせることはないか） 等

②相互の教育の内容や方法に関する理解の深化

- ・相手の職場体験、保育参観・授業参観等を通じた気付きや疑問を話し合う

相互理解

・一緒に保育や授業の展開について考えてみる 等

【改善・発展サイクルの定着（フェーズ4）】

（持続可能な体制）

①幼保小合同会議の定着

合同会議

- ・園小での持続的、発展的な組織体制を構築する
- ・日々の業務の中で、幼保小の合同会議の開催頻度が低くなることがある。幼保小の先生が意識を共有し続け、子供の実態に応じつつ幼保小の創意工夫を生かした架け橋期のカリキュラムとするため、幼保小の合同会議の定期開催を継続する

・話し合う内容についても、日々の課題だけではなく、時には、中長期的な展望をもって話し合ったり、初心に戻って話し合ったりする 等

②相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・発展

- ・幼保小の先生が協働して架け橋期のカリキュラムの作成や実施の過程における気付きを大切にして、接続する園・小学校での子供の学びや生活を具体的にイメージしながら、相手の教育の内容や方法について理解し、園・小学校の取組の改善につなげる 等

相互理解

基盤づくり:相互理解を深めるために

- 子供の姿を見ながら、語り合う

(例) 保育・授業参観

動画

子どもの姿

} + 解説

先生のねらい・意図

子供の姿を語り合い、
相互理解を深めること
からスタート

- 事例をもとに話し合う

- ◆ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿


- 用語について話し合う

(例) 指導、活動、体験、…

⇒ 捉え方の違いは文化の違い
なぜ、そう捉えるのか、理由が重要

- 保育・授業体験

- 合同での授業づくり

いろいろな方法で話し合ってみましょう 

育みたい力
表や付箋を使って可視化と整理

育ちと学びのつながり
生活科の教科書を一緒に見ながら

小学校では、がんばりぬく力を育てたいのです。

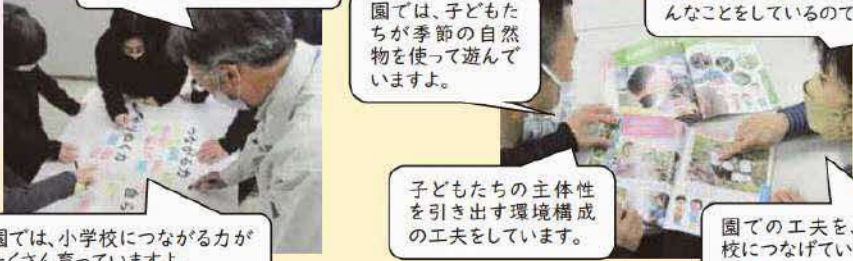
園では、子どもたちが季節の自然物を使って遊んでいますよ。

園では、子どもが季節の変化に気付くことができるようにどんなことをしているのですか？

園では、小学校につながる力がたくさん育っていますよ。

子どもたちの主体性を引き出す環境構成の工夫をしています。

園での工夫を、小学校につなげていくためには…。



子供の姿を知ることから・・・小学校の先生方の変化

➤保育参観での驚き

- いろいろなことができる5歳児!

➤「0からのスタート」からの脱却

- 「園ではどうしてた?」**子供に問う**
- 「園に聞いてみよう」**園に問う**

➤園での経験を生かした授業づくり

- 指導案に園での体験を記載

➤子供の姿の変化

- 安定
- 主体的
- 自己発揮



初等教育資料 2023年11月号
(東洋館出版社)

小学校の先生方の姿から

- 幼保の先生の子供への関わり方を参考に、子供の思いからスタートして指導方法を工夫するようになった。
- 子供たちに活動したいことを尋ねてみたり、園での経験を尋ねたりすることで、子供が選択・判断する場面が増え、主体的な姿が見られるようになっている。
- 園での体験を事前に知ること、体験を生かしてつなげるための視覚教材など学習方法の工夫などがされている。

など

子供たちの姿から

- 「幼稚園や保育所などでやったことがある」という経験が小学校でも生かされるようになり、安心につながっている。
- 登校しぶりや離席する子が少なくなり、子供の集中力や活動への関心・意欲の持続が伸びている。
- スタートカリキュラムの充実につながり、小学校の生活へのギャップが少なくなった。
- 子供同士の話し合いが大事にされ、積極的に発言したり聞いたりし、自信を高めている。

など

架け橋期のカリキュラム作成の実際①

- カリキュラム開発に先行・並行し、幼保小の先生が**共通理解**を深めるための**公開授業・保育**及び**合同研修**を実施

⇒ カリキュラム作成のためには、**相互理解の基盤**が必要

子供の姿を語り合い、相互理解を深めることからスタート

- ドキュメンテーション、事例検討、**具体的な子供の姿**から幼児期の子供の相互理解等を深める。
- 作成した**研修教材**の活用（例：高松市「学びをつなぐ活用シート」子どもの学びトークシート、交流シート・交流Memo）。
- 幼児教育施設間、幼児教育施設と小学校間の相互理解を重視し、R4年度はカリキュラム作成に進まなかった自治体もある。

高知県の取組

https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311601/files/2023071900053/file_2023927320051_1.pdf

参考資料 令和5年6月
高知県教育委員会幼保支援課

「架け橋期^(※)の「カリキュラム」づくりのポイント (幼保小が、子供をまんなかにして互いの教育内容を話し合い、一緒にカリキュラムを作っていく取組)

本資料は、R4年度に県教育委員会が文部科学省から受託して実施したモデル事業の実践を踏まえ、取組の進め方の参考としてまとめたものです。
(※)幼保小が協働して、期待する子供像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの(R5.2.27中央教育審議会初等中等教育分科会「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について」)

1 市町村における意思決定

- 所管や部局の枠を越えて取り組むことについて、市町村として意思決定する
- 各所管課で担当者を配置する

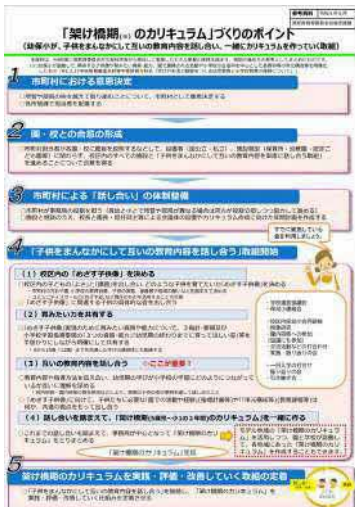
2 園・校との合意の形成

- 市町村担当者が各園・校に趣旨を説明するなどして、設置者(国公立・私立)、施設類型(保育所・幼稚園・認定こども園等)に関わらず、校区内のすべての施設と「子供をまんなかにして互いの教育内容を率直に話し合う取組」を進めることについて合意を得る

3 市町村による「話し合い」の体制整備

- 市町村が事務局の役割を担う(保幼と小とで所管や部局が異なる場合は双方が役割分担しつつ協力して進める)
- 施設と相談のうえ、校長と園長・担任同士等による会議体の設置やカリキュラム作成に向けた年間計画を作成する

すでに実施している



すでに実施している
会を利用しましょう。

令和5年度
架け橋プログラム
採択自治体の
取組例

4

「子供をまんなかにして互いの教育内容を話し合う」取組開始



(1) 校区内の「めざす子供像」を決める

- 校区内の子どもの「よさ」と「課題」を出し合い、どのような子供を育てたいか「めざす子供像」を決める
 - ・市町村の方針や園・小学校の教育目標、子供の実態、保護者や地域の願いなどを踏まえて決める
 - ・コミュニティスクールの「めざす姿」など既存のものを活用することも可能
- 「めざす子供像」に関連する子供の具体的な姿を出し合う

(2) 育みたい力を共有する

- 「めざす子供像」実現のために育みたい資質や能力について、3指針・要領及び小学校学習指導要領の「3つの資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を手掛かりにしながら明確にして共有する
 - ・0から18歳（12歳）までを見通した学びの連続性にも配慮する

(3) 互いの教育内容を話し合う ←ここが重要！

- 教育内容や指導方法を伝え合い、幼児期の学びが小学校の学習にどのようにつながっているか互いに理解を深める
 - ・校内研修・園内研修の相互参加などにより、実際の子供の姿の事例を通して話し合うこと
- 「めざす子供像」に向けて、子供たちに必要な「園での活動や経験」(指導計画等)や「単元構成等」(教育課程等)は何か、共通の視点をもって出し合う

- ・学校運営協議会
- ・保幼小連絡会
- ・校区内保幼小合同研修
- ・授業研究
- ・園内研修への参加(協議にも参加)
- ・交流活動などの打合わせ実施・振り返りの会
- ・一日入学の打合せ振り返りの会
- ・引き継ぎ会

(4) 話し合いを踏まえて、「架け橋期(5歳児～小1の2年間)のカリキュラム」を一緒に作る

- これまでの話し合いを踏まえて、事務局が中心となって「架け橋期のカリキュラム」をとりまとめる



モデル地域の「架け橋期のカリキュラム」を活用しつつ、園と学校が協働して、各地域にあった「架け橋期のカリキュラム」を作成することもできます。

「架け橋期のカリキュラム」完成

5

架け橋期のカリキュラムを実践・評価・改善していく取組の定着

- 「子供をまんなかにして互いの教育内容を話し合う」を継続し、「架け橋期のカリキュラム」を実践・評価・改善していく仕組みを定着させる

話し合い
(評価・改善)



実践

こども
まんなか

事務局から「カリキュラム案」 (たたき台)を提示

- 「手引き」を参考に「架け橋期のカリキュラム枠(園と小学校が協働で作成する「共通シート」と「実践記録」から構成)」を開発。
- 市共通版「架け橋期のカリキュラム全体計画」を提示。これを基に学区の課題や強みを明確にし、5歳児10月～小学校1年生7月までの「期待する子ども像」「共通して充実を目指す活動・体験」を中心に協議。

既存の接続期カリキュラム等の 見直しから着手

- スタートカリキュラムの現状と課題を整理し、協同で生活科の年間指導計画及び学校行事を見直す。
- 「手引き」の共通の視点を参考に各々のカリキュラムを改善。

実効性のあるカリキュラム作成を目指し、カリキュラム作成のための教材等の作成に留まる

- 架け橋カリキュラムデザインシート。

「架け橋期のカリキュラム」を作成しよう!

2. どのようにして「架け橋期のカリキュラム」を作るの?

滋賀県として開発中の「架け橋期のカリキュラム」は、園と小学校が協働で作成する「共通シート」と「実践記録」で構成されています。
園と小学校が共通の視点をもって、保育・教育の実践をするために、「共通シート」には、大きく三つの視点を設けています。共通の視点は、①期待する子ども像、②期待する子ども像に関連がある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、③期待する子ども像に迫るために大切にしたいことです。
園と小学校が共通の視点を理解したうえで、互いに実践し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見られた子どもの学びの姿を「実践記録」に描き出しましょう。実践したことを、互いに振り返り、共有することで、保育・教育の質の向上を図ることが大切です。



Point
共通シートには、実践を振り返るための「振り返り枠」を設けています。また、実践記録には、他園や小学校からのコメントを記載する「コメント枠」を設けています。年度途中に実践を振り返ったり、カリキュラムを改善したりするような持続的・発展的な取組を目指しましょう。

「架け橋期のカリキュラム」をデザインする手順

1 幼児・児童の学びや育ちを理解する
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する
・互いの保育・教育について知る

「百聞は一見に如かず」。実際の保育・授業を参観することで、子どもの様子や互いの保育・教育の理解が深まります。また、期待する子ども像を意識して、参観したり語り合ったりすることで子どもの見方を共有することにつながります。



2 期待する子ども像を設定する
・期待する子ども像を明らかにする
・実施期間を検討する
(最低5歳児から小学校1年生の2年間実施)

期待する子ども像を語ることで、目的が明確になります。目指す子どもの姿や課題、校園で取り組んでいること等、様々な視点を取り入れながら協議します。協議する中で、期待する子ども像が先に明らかになることもあれば、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を先に見出すこともあります。両方を往還させながら、十分に協議しましょう。

3 期待する子ども像に関連がある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見出す

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート(案) 【小学校区】校園名()

時期	5歳児				第1学年			
	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12
期待する子ども像		2	3	4	2	3	4	
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿								
主な教育課程・予想される活動								
振り返り								

園と小が協働で策定

Anticipation 見通しをもつ

Reconstruction 実践の振り返りを踏まえたデザインの見直し・再構成

4 期待する子ども像の育成に向けて、大切にしたいことを共有する
・環境・単元の工夫
・先生の関わり
・一人ひとりの子どもに応じた支援 等

期待する子ども像に迫るために大切にしたいことは、校区の実態によって異なります。項目を増やしたり、内容を検討したりすることで、実態に即したものにしていきたいです。
0歳から7歳における「大切にしたいこと」の手掛かり例も参考にしてください。

0歳から7歳における「大切にしたいこと」の手掛かり例 … p.5 - 6 を参照

5 5歳児のカリキュラムをデザイン
1年生のカリキュラムをデザイン

園と小学校が共通の視点を共通理解したうえで、主な教育課程や予想される活動をデザインします。指導者側で綿密に計画を立てていくというよりも、子どもの姿を思いながら、どんな活動がどうつながっていく可能性があるか、子どもの動きに合わせて変更可能なデザインを考えましょう。



子どもの学びの姿を描き出す

Action やってみる

Reflection ふりかえる

子どもの学びの姿を描き出す

Action やってみる

Reflection ふりかえる

持続的・発展的な取組を目指しましょう



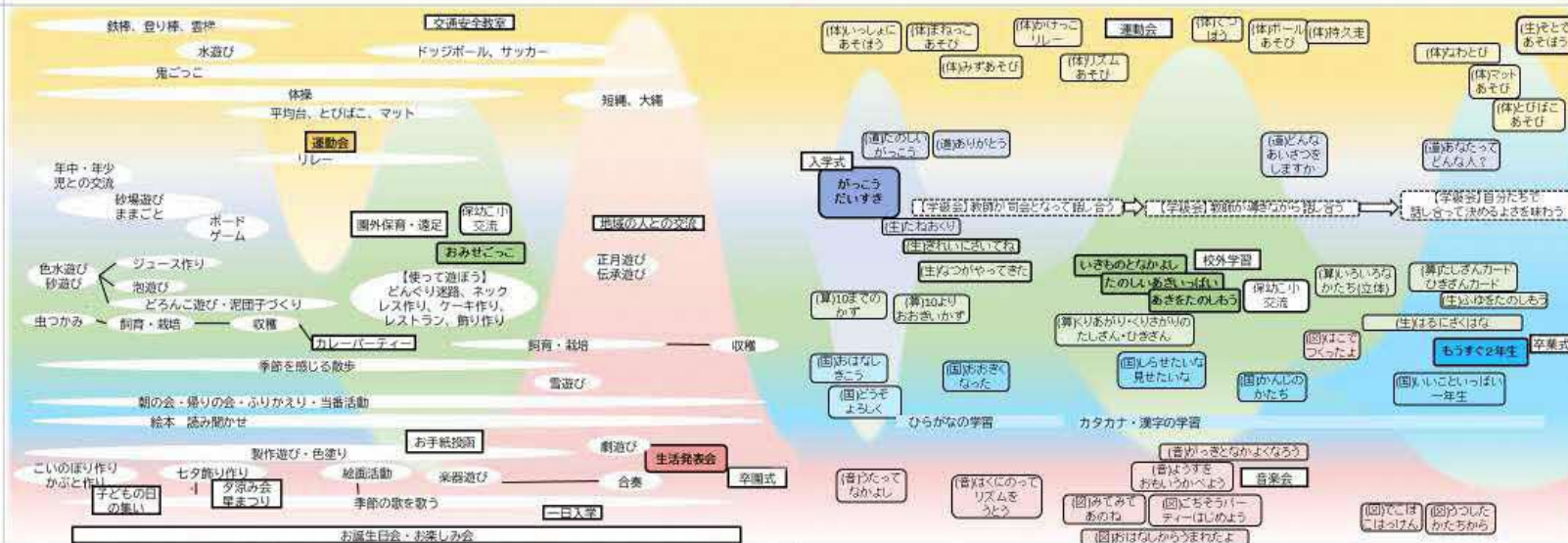
全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切に、接続に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう。その際、地域や園・小学校の実情も踏まえながら、ICTやオンライン等の活用を図るなど、効果的に取り組めるようにしましょう。

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート

【城東小学校区】校 園 名 (城 東 小 学 校)

		5 歳児			第 1 学 年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心を持ち、失敗を恐れず行動する～					
幼児期の終わりに育ててほしい姿	自立心 園生活を通して、もっとこうしたいという思いが強くなり、試行錯誤しながら、自分なりに最後までやってみようとする。 思考力の芽生え 環境や友達の影響を受け、試行錯誤しながらもっと楽しくしようと工夫するようになる。	満足感や達成感を味わい、自信をもって諦めずに取り組むようになる。			興味をもって色んなことにチャレンジし、「できた！」を味わうようになる。		
大切にしたいこと	環境単元 ・子どもが、自らやってみようと思える環境の工夫 ・友達同士の関わり（異年齢交流を含む）が活性化する場づくり 先生の関わり ・「伝えたい」を受け止める振り返りの雰囲気づくり	・子どもと先生が共に作る環境 ・同じ目的に向かって取り組みやすくなる場づくり			・柔軟な教科書教材の取り扱い ・児童の発想・思いを生かした単元構想		
キーワード	あれもやりたい！これもやりたい！	もっと もっと やりたい！	できたよ！ もっとできるよ！	知ってる！ やりたい！	もっと もっと やりたい！	できたよ！ もっとできるよ！	

主な教育課程・予想される活動



振り返り

○空室教室をフリーールームとし、朝の用意が終わった子どもはその部屋でゆっくり過ごしてもよいとしたこと。安心してスタートを切ることができた。

○「がっこうだいすき」の学校たんけんでは、子ども一人ひとりが行きたい場所に行けるよう、全教職員が協力して実施した。

○「なつがやってきました」では、近びろなどで困ったことがあったときは、友達や先生と相談しながら進めることができた。また、春の遠いに行けるよう、紙書で整理した。

▲園での経験や子どもの思いを引き出せるような発問や疑問を心がけたが、教師主導になってしまうこともあった。

○「たのしいあき いっぱい」では、夏から秋の季節の移り変わりの中で、きれいに色づいた葉や落ち葉のかさかした音などについて、園講師「しらせたいな、見せたいな」の学習で発想したことを見事に伝えることができた。

○「あきわたのしもう」では、子ども達のやりたいうちを大切に言葉掛けをしてきた。秋の物を焼いた遊びを相手（園児）に合わせて改良し、レベルアップしようと友だちと相談しながら進めることができた。子供用シートを使って子どもの「〇〇したい」という思いをもとにした学習を展開することができた。

▲秋の物を使ったおもちゃは園々に小さな物を使うことから始まった。子ども達が、大きな材料に気付けてダイナミックな製作ができるような準備や材料を出すタイミングが少し遅れてしまった。

○「もうすぐ2年生」では、様々な教科書の学習や行事等において一年間でがんばってきたことを思い出し、友達と成長を喜び合ったり励まされたりすることで、自分自身の成長に気付く。自信を深めることができた。

○一年間のことを思い返すことを通して、入学式などで自分たちが上級生に優しく扱ってもらったことを想出し、新1年生を温かく迎えたいという思いをもち、入学式でのような発表をしようと考え、意欲的に話し合っ決めていくことができた。

▲「おめでとうのしもう」では、子どもの思いを聞く前に教師が風を作ることを決め、材料を準備していった。風を感じながら十分に遊んだら園での経験を想い起こしたりする中で出る子どもの声を持つことが足らなかった。

令和6年度 大館市 架け橋期のカリキュラム全体計画(5歳児4月～3月)

架け橋期に期待する子どもの姿
～周囲の人々や環境と主体的に関わり、学び喜びや楽しさを実感しながら仲間と共に育ち合う子ども～

- 【知識及び技能の基礎】 豊かな体験を通じて、感じたり、気づいたり、分かったり、出来るようになったりする。
【態度・判断力・表現力の基礎】 気づいたことやできるようにしたことなどを使い、書いたり、話したり、工夫したり、表現したりする。
【学びに向かう力・人間性等】 できるようにしたことや分かったことなどを実感し、自分の成長を認め、次の活動や体験への意欲をもつ。



▼幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

- ア：健康な心と体 イ：自立心 ウ：協同性 エ：道徳性・規範意識の芽生え
オ：社会生活との関わり カ：思考力の芽生え
キ：自然との関わり・生命尊重 ク：数量や図形、構構や文字などへの関心・感覚
ケ：言葉による伝え合い コ：豊かな感性と表現

Table with 4 columns (ages 4, 5, 6, 7) and 3 rows (Knowledge/Skills, Attitudes/Judgment/Expression, Learning/Engagement/Personality). Each cell contains detailed curriculum goals and activities.

※赤字は、令和5年度のカリキュラムを修正・追加した箇所です。

架け橋期のカリキュラム ～大館市～

(令和6年3月時点)

令和5年度
架け橋プログラム
採択自治体の
取組例

令和6年度 城西小学校区 架け橋期のカリキュラム全体計画(5歳児 4月～3月)

架け橋期に期待する子どもの姿
大館市 周囲の人々や環境と主体的に関わり、学ぶ喜びや楽しさを実感しながら仲間と共に育ち合う子ども
城西小学校区 豊かな体験を通して、学ぶ喜びや楽しさを実感し、仲間と幸せを分かち合う子ども



<共通の視点>
言葉で伝え合う力
共感・協働する力

城西小学校区
城西小学校
大館ホテヤこども園
大館ホテヤ第二こども園
宮の杜神明こども園

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	5歳児 第1期			5歳児 第2期			5歳児 第3期			5歳児 第4期		
ねらい	・年長としての意欲と自信をもち、自分の力を十分に発揮しながら安心して生活する。			・友達と思いを伝え合いながらイメージを共有し、力を合わせて遊びや生活を進めていく中で仲間意識を高める。			・友達と一緒に考えたり、話し合ったり、折り合いを付けたりしながら共通の目的に向かって遊びや生活を進める楽しさを感じる。			・自分や友達のよさが分り、認め合ったり受け入れ合ったりしながら、協力して遊びを進める楽しさややり遂げる満足感を感じる。		
小学校区で目指す子どもの姿	・自分のしたことや思ったことを相手に話そうとする。 ・絵本や物語、絵や図、言葉遊びなどに親しみ、言葉の楽しさや美しさに気付く、言葉を楽しみにする。 ・リレー遊びやドッジボールなどのゲームを楽しむために、作戦やルールを話し合ったり工夫する。 ・絵本や物語に親しみ、気付いたことや感想、想像したことを友達と伝え合うことを楽しむ。 ・ルールのある遊びの中で、友達と競い合ったり応援したりして遊ぶ。 ・すすんで挨拶を交わしたり「ありがとう」「ごめんなさい」の気持ちを心をこめて伝える。			・自分のしたいことや思ったことを相手に伝え、話しかけようとする。 ・絵本遊びや色水遊びを通して、絵本や色の名前などに興味をもって遊ぶ、言葉が広がることを楽しむ。 ・ごっこ遊びや共同製作などで友達とイメージを伝え合い、共有しながら表現する喜びを感じる。 ・遊びの目的に沿って時間をうまく使ったり、場所や道具を選んだりして、自分たちで遊びを進める。 ・園の行事などに向けてやりたいたいことを決め、目的が達成できるように話し合ったり協力したりする。 ・トラブルを通して、悪態を味わったり気持ちを調整したりすることを繰り返して、相手の思いに気付く。			・自分がしたことや思ったことを話そうとし、相手の話を聞こうとする。 ・時計や記号など、文字や数字に親しみ、生活する上で必要な情報が分かることを喜ぶ。 ・遊びや生活を振り返って楽しかったことや困ったこと、明日やりたいことなどを言葉で伝え合う。 ・絵本や物語に親しみ、気付いたことや想像したことを友達と伝え合ったり言葉や心情的イメージを広げて遊びに取り入れたいりする。 ・遊びや生活を進めながら友達と協力し合い、仲間意識を高める。 ・考えを伝え合ったり相談したりしてイメージや目的を共有し、遊びや生活をつくる。			・思ったことや考えたことを相手に分かるように話そうとすると相手に話に興味をもつて聞く。 ・園生活を振り返り、今まで経験したことや友達と協力した思い出などを言葉で伝え合い、成長した喜びを味わう。 ・様々なことに関わりの中で刺激を受けながら自分の見方や考え方を広げる。 ・身近な事象と関わる中で、変化や仕組み、法則性などに気付く、誇りや達成感や工夫したりの試行錯誤を楽しむ。 ・友達とのよさや一緒に遊びを楽しむさを感じながら共通の願いや目的を実現させる喜びを感じる。 ・園生活やクラスの自分の役割を果たそうとし、役に立つ喜びを味わう。		

共通して充実を目指す活動・体験	共通して伝え合う力	共感・協働する力
<p>言葉で伝え合う力</p> <p><朝の会・集りの会> ・当番が進行したり質問したりして伝え合いを楽しむ。 ・名前や朝に親しみ、食べた物など自分のことをみんなに伝える。 ・絵本の内容や連絡をクイズ形式で聞いて、答える。 ・「ぼくは、わたしは、～です。」の絵本を見せあう。</p> <p><かがやきタイム> ・興味をもったことを友達や先生に伝える。 ・友達と一緒に「いいね。」と褒めたり、共感する意見を話したりする。 ・「さあなんタイム」 ・困っていることや先生、友達に聞いてみたいことを伝えようとする。</p>	<p>みんなに伝えよう</p> <p><朝の会・集りの会> ・当番が進行したり質問したりして伝え合いを楽しむ。 ・名前や朝に親しみ、食べた物など自分のことをみんなに伝える。 ・絵本の内容や連絡をクイズ形式で聞いて、答える。 ・「ぼくは、わたしは、～です。」の絵本を見せあう。</p> <p><かがやきタイム> ・興味をもったことを友達や先生に伝える。 ・友達と一緒に「いいね。」と褒めたり、共感する意見を話したりする。 ・「さあなんタイム」 ・困っていることや先生、友達に聞いてみたいことを伝えようとする。</p>	<p>なかよく遊ぼう</p> <p><朝の会・集りの会> ・当番が進行したり質問したりして伝え合いを楽しむ。 ・名前や朝に親しみ、食べた物など自分のことをみんなに伝える。 ・絵本の内容や連絡をクイズ形式で聞いて、答える。 ・「ぼくは、わたしは、～です。」の絵本を見せあう。</p> <p><かがやきタイム> ・興味をもったことを友達や先生に伝える。 ・友達と一緒に「いいね。」と褒めたり、共感する意見を話したりする。 ・「さあなんタイム」 ・困っていることや先生、友達に聞いてみたいことを伝えようとする。</p>

行事・子どもの交流	行事・子どもの交流	行事・子どもの交流	行事・子どもの交流
<p>入園式 避難訓練(通年) 参観日 運動会</p> <p>進級会 交通安全教室(通年) 登山・遠足 セタ会 スイミング</p>	<p>参観日 運動会</p> <p>七ツ会 スイミング</p>	<p>参観日 運動会</p> <p>七ツ会 スイミング</p>	<p>入学式 参観日 運動会</p> <p>七ツ会 スイミング</p>
<p>小学校1年生の保護者参観・情報交換会 架け橋期研究委員会・カリキュラムの発表し 架け橋期研究委員会</p>	<p>小学校1年生の保護者参観・情報交換会 架け橋期研究委員会・カリキュラムの発表し 架け橋期研究委員会</p>	<p>小学校1年生の保護者参観・情報交換会 架け橋期研究委員会・カリキュラムの発表し 架け橋期研究委員会</p>	<p>小学校1年生の保護者参観・情報交換会 架け橋期研究委員会・カリキュラムの発表し 架け橋期研究委員会</p>
<p>☆年長になった喜びや緊張を受け止め、目標をもって意欲的に取り組む姿を認めながら自信をもって自分らしさを発揮できるように励ましていく。</p> <p>○1日の生活の流れを時計とともに表示し、活動の見通しがもてるようにする。</p> <p>○子どもが遊びを継続し、満足感や達成感を得られるように、新しい素材や道具などを子どもと一緒に考えて用意し、場所や時間を十分に確保したりする。</p>	<p>☆友達と協力したり競い合ったりして活動する中で、繰り返し挑戦したりしたりして楽しんでいる姿を丁寧に眺め取り、認めたり紹介したりする。</p> <p>☆お互いの思いやイメージを出し合いながらよりよい方法で遊びを展開できるように、考えを受け止めて言葉にしたり視覚化したりしながら、考えを引き出す援助をしたりする。</p> <p>○遊びの楽しさや工夫を交流したり、お互いのよさを認め合ったりするために、遊びの振り返りの時間を確保する。</p>	<p>☆共通の目的に向かって試行錯誤しながら実現に向かう場面を大切に、それぞれの特徴を生かしながらお互いによきよき認め合ったりしながら協力し合うことができるような言葉掛けをする。</p> <p>○一人一人の興味・関心に応じた絵本との出会いを大切に、絵本に親しみ環境を工夫する。</p> <p>○四季の変化や自然の楽しさ、不思議さを感じられる体験、知的好奇心を満たす遊びや環境を工夫する。</p>	<p>☆これまでの経験を生かして、心と体を十分に働かせて自分たちで遊びを進める姿を認め、満足感をもてるようにする。</p> <p>☆子どもと一緒に園生活を振り返りながら、5歳児としての役割をやり遂げた達成感や他者の成長への喜びを共有し、自信をもって行動できるようにしていく。</p> <p>○卒園に向けて、他者の成長に気付いたり、お世話になった方々への感謝の気持ちをもちたてることができるような環境を工夫する。</p>
<p>子どもと園の様子を伝えたり、家庭での様子や発達上心配なことを聞いたりしながら、保護者の思いを受け止めるとともに、信頼関係を築いていく。</p> <p>・年長として意欲と自信をもって生活している姿を伝え、子どもの成長をともに喜び合ったり考えたりして支えていく。</p> <p>・年間の行事予定やそれをリードする年長児としての役割を伝え、理解と協力を促す。</p>	<p>遊びの様子や行事などの参観、観察を通して、「どのような育ちを願っているのか、どんな経験をさせたいのか」、子どもの変化を伝えながら成長を共有していく。</p> <p>遊びや生活の中でのトラブルが成長につながることを伝え、様子を伝えながら理解を促すようにする。</p> <p>・早寝・早起き・朝ご飯や絵本の読み聞かせの大切さを伝え、理解と協力を促す。</p>	<p>・就学時健康診断を機会に、入学までに身に付けた習慣や力について話している。</p> <p>・就学に向けての心配や不安を受け止めて、安心して就学できるように子どもへの関わりを一層に考えるとともに、必要な情報を提供し相談できる機会や場をつなぐ、場合によっては小学校と情報を共有する。</p> <p>・就学に向けて、起床、就寝、食事、メディア使用の時間を見直し、規則正しい生活を送れるように協力を願っている。</p>	<p>卒園式、入学式までの予定などの情報を提供し、見通しをもって準備できるよう、また不安がないよう支援する。</p> <p>・就学に向けての心配や不安を受け止めて、安心して就学できるように子どもへの関わりを一層に考えるとともに、必要な情報を提供し相談できる機会や場をつなぐ、場合によっては小学校と情報を共有する。</p>

架け橋期のカリキュラム ～大館市～

(令和6年3月時点)

令和5年度 架け橋プログラム 採択自治体の取組例

令和6年度 城西小学校区 架け橋期のカリキュラム全体計画(1年生4月～3月)



＜共通の視点＞
言葉で伝え合う力
共感・協働する力

城西小学校区
城西小学校
大館ホテヤこども園
大館ホテヤ第二こども園
宮の杜神明こども園

架け橋期に期待する子どもの姿

大館市 周囲の人々や環境と主体的に関わり、学ぶ喜びや楽しさを実感しながら仲間と共に育ち合う子ども
城西小学校区 豊かな体験を通して、学ぶ喜びや楽しさを実感し、仲間と幸せを分かち合う子ども

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
期	小学校1年 第1期			小学校1年 第2期			小学校1年 第3期			小学校1年 第4期		
ねらい 重視 点	・ 小学校の生活や新しい学習に興味をもって取り組み、 学級の友達や上級生、先生と進んで触れ合い、楽しく、安心して生活する。			・ 小学校の生活や学習に見直しをもって取り組み、 目的や学ぶ楽しさを友達と共有し、意欲的に活動や学習に取り組む。			・ たくさんの友達との関わりの中で、 相手の思いや願いを感じながら自分の思いを表現し、主体的に活動や学習に取り組む。			・ 自分や友達の成長に喜びながら、 お互いに認め合い、相手の気持ちを尊重しながら、自信をもって活動や学習に取り組む。		
小学校区で目指す子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> したことや買付けたことなどを、姿や口形、発声や発音に気をつけてはきはきと話す。 楽しく生活するために大切なこと（元気のよい返事や気持ちを込めた挨拶等）のよさを実感し、進んで実践する。 学級の友達と一緒に活動する楽しさや様々な考えに触れる喜びを味わう。 学び合いの約束を生かして自分の思いを表現したり友達と伝え合ったりする。 相手の気持ちを考えたり自分の行動を振り返ったりして、気持ちを調整しながら楽しく生活しようとする。 新しく出会う先生や友達と一緒に活動する楽しさを感じながら進んで関わろうとする。 			<ul style="list-style-type: none"> 話しかけられたことや自分が聞きたいことを、声ごさないように注意して聞く。 学校生活のリズムが身に付き、活動に見通しをもって準備したり約束やルールを守って行動したりする。 自分の伝えたい相手に応じて言葉や方法を選んだり、事柄の順序を書いたりして話す。 経験したことや身に付けたことを活用したり友達の見方や考え方を取り入れたりしながら課題を解決する。 友達と一緒に活動する中で、お互いを理解し、連帯感や所属感を深める。 学校を支えている方々や地域の方々などいろいろな人と関わることを楽しみ、地域への関心を深める。 			<ul style="list-style-type: none"> 友達の話を聞いて、質問や感想を伝えたり、相手の発言を受けて話をつないだりする。 身近なことを話す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにする。 伝えたいことの順序に気をつけて分かりやすく伝えたり、理由を付けて説明したりする。 既習を活用したり、ペアやグループで相談したりして、よりよい考えを見つめようとする。 友達とよくいうところを見つけて、お互いのよさを認め合い、温かい学級をつくらうとする。 友達や家族、地域の方に感謝し、みんなの役に立つ喜びを感じながら自分の役割を果たそうとする。 			<ul style="list-style-type: none"> 学習の見直しをもって、積極的に友達の話や聞き、質問や感想を述べて学習をつないでいく。 できるようになったことや、学級や家庭での役割ができたことなど、自分の成長に喜びを感じる。 これまでの学習や経験を生かし、事柄の順序に沿って話したり書いたりする。 新しい1年生に学校のことをわかりやすく伝えるために、方法を工夫する。 自分のよさや友達のよさに喜び、互いに認め合って、得意なことを生かしながら役割を果たしていこうとする。 「6年生を送る会」や卒業式、修式の準備や練習を通して異学年の児童や家庭、地域への感謝の気持ちをもち、 		

共通して充実を目指す活動・体験

<p>みんなで伝え合う</p> <p>＜朝の会・帰りの会＞ ・元気に挨拶したり、みんなと仲よく歌ったりしながらクラスの一休感を味わう。 ・自分の経験を楽しく話したこと、友達のよさを発表する。</p> <p>どうぞよろしく</p> <p>○新しい友達や思いを伝え合ったり、進んで関わったりする。 ・自分の好きな物や得意なことなど、伝えたいことを書いたり自己紹介カードを作り、友達と交換する。 （目標「どうぞよろしく」「なんいじやうかな」） ○歌ったり踊ったりしながら友達と交流しよう。 （目標「うたであつたやまがよくなるよ」） ・楽しく生活するためのルールやマナーを話し合い、守って友達となかよく遊ぶ。 （生活「みんなななかよくなりたいな」） ・学校生活を楽しくみながら過ごそう。 （目標「どうぞよろしく」） ・友達と仲よくすることのよさや助けあうことの大切さを実感するまで関わろう。 （目標「みんなななかよくね」）</p> <p>自分の役割をやり遂げよう</p> <p>○自分から出来ることを考えて友達と協力しながら進んで活動し、みんなのために役に立つ喜びを感じる。（「ハッピータイム」） ・学校の祭活動・給食当番活動（学活） ・ハートアップタイム ・縦割り班活動 ・異学年活動（児童会活動） ・スペシャル休み時間（地域交流） ・夢授業（年3回 生活科） ・6年生を送る会（児童会活動）</p>	<p>＜かがやきタイム＞</p> <p>・学習を振り返り、学んだことや友達のよさ、もっと考えてみたいことなどを伝え合う。</p> <p>＜なかよしタイム・本気ッずタイム＞</p> <p>・自分の考えを言葉や図表、友達と考えを伝え合う。 ・自分とは異なる友達の考えも認め、よりよい考え方を</p> <p>みんなでハッピーになろう</p> <p>○1年間の学習や生活を振り返り、自分や友達のできたようになったことなどに喜び、2年生への期待や意欲をもち、 ・新しい1年生を招待し、学校のことを教えたり一緒に遊んだりする。 ・新しい1年生のために教室をきれいにしたり、給食の作りかけを作ったりする。（生活「もうすぐ2年生」） ・楽しかった思い出を絵日記に書き出す。（目標「いいこといっぱい1年生」） ・お世話になった方や家族などに手紙を書く。（目標「みんな みんな ありがとう」） ・1年生のお楽しみ会を企画して実践し、次の学年への意欲を高める。（生活「お楽しみ会をしよう」） ・書林みや安全に楽しく遊ぶすはらごのようにしたらよい考え、実践する。（生活「書林みやを楽しもう」）</p>
<p>＜かがやきタイム＞</p> <p>・学習を振り返り、学んだことや友達のよさ、もっと考えてみたいことなどを伝え合う。</p> <p>＜なかよしタイム・本気ッずタイム＞</p> <p>・自分の考えを言葉や図表、友達と考えを伝え合う。 ・自分とは異なる友達の考えも認め、よりよい考え方を</p> <p>みんなでハッピーになろう</p> <p>○1年間の学習や生活を振り返り、自分や友達のできたようになったことなどに喜び、2年生への期待や意欲をもち、 ・新しい1年生を招待し、学校のことを教えたり一緒に遊んだりする。 ・新しい1年生のために教室をきれいにしたり、給食の作りかけを作ったりする。（生活「もうすぐ2年生」） ・楽しかった思い出を絵日記に書き出す。（目標「いいこといっぱい1年生」） ・お世話になった方や家族などに手紙を書く。（目標「みんな みんな ありがとう」） ・1年生のお楽しみ会を企画して実践し、次の学年への意欲を高める。（生活「お楽しみ会をしよう」） ・書林みやを安全に楽しく遊ぶすはらごのようにしたらよい考え、実践する。（生活「書林みやを楽しもう」）</p>	<p>フェスティバルにむかって</p> <p>○城西ふれあいフェスティバルに向けて内容を役割など話し合い、協力して進める。 （学校行事「城西ふれあいフェスティバル」） ・フェスティバルの目標や発表の内容、役割等を話し合って決める。 （生活「フェスティバルにむかってがんばろう」） ・劇の登場人物のセリフや動きを話し合い練習する。（目標「がんばりたいのちう」） ・言葉や道具、小道具など、必要な話し合い、協力から情報を集めたり友達と分担したりして協力して作る。 （生活「はって かげびでー」） ・活動を振り返り、認め合う。</p>



児童の交流	<p>○入学した喜びを共有し、意欲的に取り組もうとする姿を認め動かし、子どもの話を共感しながら聞いてあげ、温かい安心できる学級づくりを工夫する。</p> <p>○幼児期とのつながりを考慮し、幼児期に親しんだ活動を取り入れ、自信をもって活動できるようにする。</p> <p>○子どもたちの思いを汲み取りながら、一人ひとりが安心感をもち活気づいて生活、学習できるように一緒に環境を工夫していく。</p> <p>○生活科を中心とした関連的な指導を行ったり弾力的に時間割を工夫したりする。</p>	<p>○主体的な体験を通して、伝え合う、交流する、試行錯誤や繰り返す活動を保障し、お互いのよさやそれぞれの気持ちを共通させるようにする。</p> <p>○運動会などの取組を通して、頑張っている姿や友達と協力している姿を価値付けし、意欲を高める。</p> <p>○曾下校や縦割り班活動、運動会、ふるさとキャリアの活動などへの取組を通して、地域の方々や他学年との関わり作りをすることに、様々な人に支えられていることに気づけるようにする。</p>	学びの場	<p>○学級集会や城西ふれあいフェスティバルなど、共通の目的にむかって活動することで、思いを伝え合い協力してつくり上げる体験をもちえるようにする。</p> <p>○縦割り班や異学年の子ども、幼児、高齢者など、関わりを段階的に広げ多くの人と交流することで、相手意識をもって行動できるようにする。</p> <p>○友達と話して考えをまとめたり、試行錯誤したり、振り返りする時間を十分に確保し、満足感や達成感をもてるようにする。</p>	<p>○体験入学では新1年生が入学を楽しみにするような活動を工夫できるようにする。</p> <p>○「ありがとうカード」や「なの花カード」を交換し、お互いのよさを実感できるようにする。</p> <p>○各教科を通して、1年間の成長を認め、2年生の学習や生活への意欲を高める。</p> <p>○1年間の成長に喜び、自分や友達のよさを実感できるように、子どもの作品やカード、写真などを掲示する。</p>
家庭との連携	<p>○学校の方針、1年生の目指す姿やスタートカリキュラム、重点授業等について伝える、理解を得る。</p> <p>○1年間の予定や1週間間の具体的な予定を丁寧に伝え、保護者が見通しをもってできるようにする。</p> <p>○連絡帳や通信などで子どもの様子や伝え、保護者が安心できるようにするとともに、家庭でも話題に、褒めたり認めたりしてもらえるようにする。</p>	<p>○子どもの頑張っていることやできるようになったこと、課題になることを具体的に伝える。</p> <p>○規則正しい生活習慣づくりやメディアコントロール、読み聞かせや音楽、家庭学習など、継続することの大切さを啓発していく。</p> <p>○学校行事や学年の活動、PTA活動などの保護者ボランティアの教育的価値を伝えて協力をお願いする。</p>	<p>○2学期始まるの準備物や生活リズムの回復について、協力をお願いする。</p> <p>○生活科「いふまでできるよ」のねらいや内容を丁寧に伝え、継続してお手伝いに取り組みようとしてお願いする。</p> <p>○子どもたちの活動の様子や頑張っている姿を伝え、家庭でも褒めたり認めたりして関わりようとする。</p>	<p>○子どもたちの成長について、家庭でも褒めたり認めたりしてもらうようお願いする。</p> <p>○自信をもって進級できるように、子どもが自分では気付かない内面の成長についても気付かせてもらうようにする。</p> <p>○生活リズムや持ち物など、子どもと一緒に話し合ったり確認したりしながら、進級に向けての準備をしてもらうようにする。</p>	

実効性のあるカリキュラム作成を目指し、 カリキュラム作成のための教材等を作成(横浜市)

架け橋カリキュラムデザインシート解説・使い方

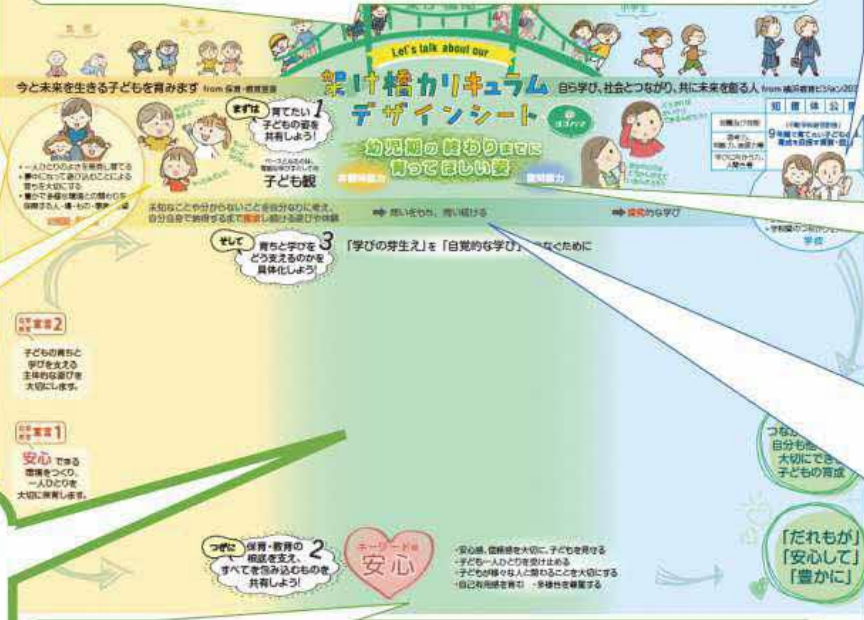
横浜の保育・幼児教育施設では、「よこはま☆保育・教育宣言」に示された「今と未来を生きる子どもを育みます」という子どもの姿、方向性を共有し、日々の実践や家庭、地域との連携に生かしています。

また、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を乳幼児期にふさわしい生活を通して育むとされています。

自分のやりたいことを見つける姿、夢中になって遊び込む姿、そんな子どもの姿を大切にしています。

・5歳児・1年生で大切にしたい姿
・共通して大切にしたい体験や活動
・保育士・教諭の工夫
・交流活動の双方のねらい等、架け橋リーフレットの「話題」を参考にしながら、ここをみなさんが作っていきます。

施設の種別を超えて、具体的子どもの姿から、架け橋期の子どもに関わる大人の対話を実現し、育ちと学びを支えるために子どもが安心して渡れる架け橋をつくるのが大切です。



横浜市では、「だれもが」「安心して」「豊かに」という人権教育の理念を様々な教育施設の根幹に据えています。「安心」はどの年代であっても、保育・幼児教育、小学校以降の教育の根拠を支えるものであることを再認識しましょう。

横浜の各学校では、学習指導要領に示された育成すべき資質・能力を整理した三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」と、横浜教育ビジョンで示された、横浜の教育が育む「知」「徳」「体」「公」「開」で表す力を9年間で育てることを目指し、教育課程を編成しています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、小学校においても子どもの姿から資質・能力の育成を捉える手掛かりとなります。

これまでの幼保小の事例や、カリキュラム開発会議での研究から、子どもが自ら「問い」をもち、問い続けること、解決に向けて試行錯誤を繰り返しながら協働的に学ぶ姿が、架け橋期で大切にしたい姿であることが見えてきました。地区として大切にしたい子ども像は、どのような姿でしょうか。このままでも構いません、対話の中で、あらためて架け橋期に目指す子どもの姿を見出していても構いません。

対話したことを視覚化し、カリキュラムにしましょう。



話題を選んで「問1」について思いついたことを短く付箋に書き、紹介し合います。



「問2」について対話しながら、キーワードを付箋で追加したり、直接書き込んだりします。



「問3」によって、今後の取組を考えながら、大事にしたいことをまとめていきます。



右上のカリキュラムの作成がどう行われたのか、実際の対話の様子を「横浜市幼保小接続期チャンネル」(youtube 動画)で限定公開しています。URL を送付しますので、横浜市の電子申請システムで申請してください。(右の二次元コードからも可)

<https://www.youtube.com/watch?v=9tfURzSs15M>



実施に必要なことにおける園・小学校での具体化の進め方（各フェーズ）のイメージ

具体化

【基盤づくり（フェーズ1）】（各園・小学校での体制）

①連携窓口の明確化

合同会議

- ・園長・校長の連携とリーダーシップ
- ・園内・校内の先生の業務分担の中に連携窓口を位置づけ、窓口の一元化を図る

- ・幼保小の先生が気軽に話し合えるよう、顔が見える機会を確保する 等

②自園・自校の先生への意識啓発と参画

相互理解

- ・園内研修・校内研修等において、先生全員で架け橋期のカリキュラムに取り組む意義やねらいを共有する

- ・連携窓口を通じて、授業参観や保育参観、先生の意見交換会などを行う 等

【検討・開発（フェーズ2）】（幼保小間の体制）

①幼保小合同会議の設置

合同会議

- ・構成員と所掌内容を決める（架け橋期のカリキュラム、幼保小の研究会、子供の交流活動等、幼保小の連携・接続に関することを所掌し、園・小学校の各担当者を構成員等）

- ・合同会議では、課題に関する協議を行うとともに、子供の変容や自園・自校の先生の意識の変容等も共有する

- ・合同会議を踏まえた、園内・小学校内体制整備（様々な委員会等との関係の明確化、開催日程の共有、全ての先生の理解と協力、個人に依存しない持続的な体制づくり） 等

②相互の教育の内容や方法に関する理解の共有

相互理解

- ・事例を取り上げ、架け橋期のカリキュラムの共通の視点から理解を深めていく
- ・設置者や施設類型、学校種における特有の表現やそれぞれにもつイメージが異なる表現（教育課程、指導、教材等）については、自治体による幼保小の合同研修での経験などを生かし、内容について具体例を示して説明する 等

【実施・検証（フェーズ3）】

（幼保小の協働実施の体制）

①幼保小合同会議の充実

合同会議

- ・これまでに蓄積された知見を整理し、相互理解を深める内容や方法について具体的に話し合う（例：参観後の意見交換はどのような視点が良いのか、園・小学校の教育課程や指導計画に関して相互の指導の内容や方法が生かせることはないか） 等

②相互の教育の内容や方法に関する理解の深化

- ・相手の職場体験、保育参観・授業参観等を通じた気付きや疑問を話し合う 相互理解

- ・一緒に保育や授業の展開について考えてみる 等

【改善・発展サイクルの定着（フェーズ4）】

（持続可能な体制）

①幼保小合同会議の定着

合同会議

- ・園小での持続的、発展的な組織体制を構築する
- ・日々の業務の中で、幼保小の合同会議の開催頻度が低くなることもある。幼保小の先生が意識を共有し続け、子供の実態に応じつつ幼保小の創意工夫を生かした架け橋期のカリキュラムとするため、幼保小の合同会議の定期開催を継続する

- ・話し合う内容についても、日々の課題だけではなく、時には、中長期的な展望をもって話し合ったり、初心に戻って話し合ったりする 等

②相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・発展

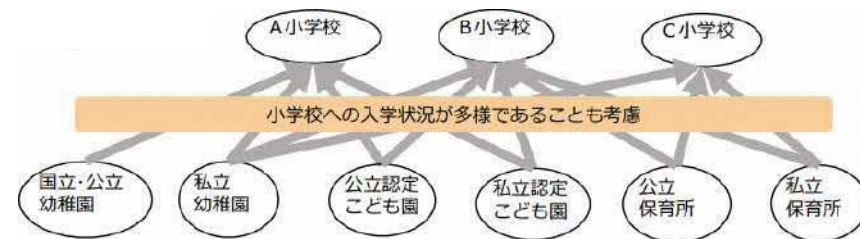
- ・幼保小の先生が協働して架け橋期のカリキュラムの作成や実施の過程における気付きを大切にして、接続する園・小学校での子供の学びや生活を具体的にイメージしながら、相手の教育の内容や方法について理解し、園・小学校の取組の改善につなげる 相互理解

体制づくりを進めるために 園・小学校：連携のきっかけづくり

● 地域の幼児教育施設の連携のきっかけ例

- ・公開保育
- ・研修（ニーズをつかむ：特別支援教育、保育技術等）
- ・小学校との連携 等

横のつながり



● 小学校との連携のきっかけ例

- ・合同研修（自治体主催・悉皆研修）
- ・幼保小連絡会（小学校入学に当たっての配慮事項などの情報交換会）
- ・入学保護者説明会（幼児教育関係者の参加により、小学校の取組を理解）

縦のつながり

体制づくりの実際

施設類型、設置主体を越えた連携のために

- 自治体内の部署を超えた**横**の連携
- 自治体担当者が関係**団体**（小学校校長会、幼児教育関連団体）を**訪問**し、理解を求める
地道な働きかけ
- 協力地域の**園校**に**足を運び**、校園長と関係性をつくる など
- 自治体内では**教育長**への啓発
- **架け橋期**の**コーディネーター**の配置（小学校教育担当・幼児教育担当の2名体制）

演 習

架け橋期の教育の充実に向けて



まとめにかえて

全てのの子供に学びや生活の基盤を育むために・・・

- 「**幼保小の架け橋プログラム**」は、子供に関わる**大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で**全てのの子供に学びや生活の基盤を育めるように**することを目指すものです。**

本プログラムは、架け橋期に求められる教育の内容等を改めて可視化したものであり、関係者の負担軽減に留意しつつ、**各地域や施設の創意工夫を生かした取組が広がり深まっていくことを期待**しています。

体制づくり

カリキュラム・教育方法の充実・改善



「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」
「はじめに ～幼保小の架け橋プログラムの重要性～」より

参考資料①

幼児期及び幼保小接続期の教育の理解増進事業における
動画コンテンツ及び冊子資料について

幼児期及び幼保小接続期の教育に関する参考資料

幼児期は生涯の人格形成の基礎を培う重要な時期です。そのため、幼稚園等においては、家庭や地域と連携を図りながら、全ての子供に格差なく質の高い幼児教育を提供していくことが重要です。また、幼稚園等において育んだ資質・能力を小学校で更に伸ばしていけるよう、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが求められている。



一方で、幼稚園等における教育は、子供の発達を踏まえ、遊びを通した学びを大切にするなどの特性を有しており、一部の保護者や小学校等からはただ遊ばせているだけとの誤解があるなど、関係者との幼児教育に関する認識の共有が未だ不十分である等との指摘がなされている。



幼児教育の特性や幼児期及び幼保小接続期の教育の重要性について広く発信し、保護者や教育関係者との認識の共有を図っていけるよう動画コンテンツや参考資料を作成。

遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”

～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～

幼稚園等においては、子供たちに遊びを通して資質・能力を育てていること、その資質・能力は小学校以降の学習や生活の基盤となっていること等について、子供たちの遊んでいる姿や幼児教育施設と小学校の先生のインタビューを交えながら解説しています。

動画
コンテンツ



幼児期に遊びを通して育まれた資質・能力



小学校の学習や生活の基盤となっている
幼児期に遊びを通して育まれた資質・能力

動画コンテンツ : <https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo>



遊びは学び 学びは遊び “やってみたくが学びの芽”

～「やってみたく」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～



たくさんの「学びの芽」を育てている子供たち

これからの時代を生きていく子供たちが、自ら人生を切り拓いていくための資質・能力を育むことは重要であり、その資質・能力の育成は、幼児期からスタートしています。



日々の保育を計画しています

子供の興味や発達を踏まえ、保育者の関わりや環境の構成によって、個々の遊びが深まっていくように豊かに育まれるような工夫しながら、小学校以降の学びを見通して、日々の保育を計画しています。



幼児教育施設の先生

幼児教育施設の先生

パン屋さん遊びがブームになっています

園での子供たちは、遊びを通して、感じたり、気付いたり、不思議に思ったことを調べたり、友達と協力するなどして、様々なことを学んでいます。



小学校以降の学習につながっていきます

幼児教育において育みたい資質・能力が、一体的に育まれ、このような資質・能力は、先生の援助や工夫があることで、より豊かに育まれ、小学校以降の学習につながっていきます。

遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”

～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～



生活科だけではなく、園のごっこ遊びの中で対話する経験が“話したり聞いたりする「国語」の学習”に、積み木遊びが“「算数」の図形の学習”に…、といったように、幼児期の遊びが小学校以降の学びにつながっています。



幼児期に教育的な意図をもって育まれた資質・能力が、小学校の各教科等における、知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力等の育成につながっていきます。



園と小学校との学びがつながるように、園の先生や小学校の先生たちの連携も行われています。

幼児教育と小学校教育がつながっているってどういうこと？

幼児教育と小学校教育の接続について、幼児期の遊びを通した学びと小学校の各教科等の学習のつながりが見える化し、幼保小の相互理解を促進するための参考資料です。

第1章「幼児教育と小学校教育」においては、それぞれの教育の特徴等を解説し、第2章「各教科等における学びのつながり」においては、幼児期の遊びを通した学びと各教科等の学習（小学校一年生で学習する全ての各教科等）とのつながり等を解説しています。

参考資料
(冊子)

幼稚園等の
遊びを通した
学び



幼児期の遊びを通した学び と **算数科 数と計算** とのつながり

遊びを通した学びは、子どもが自ら主体的に学び、知識や技能を身につける重要な機会です。幼稚園等の遊びを通した学びは、小学校の算数科の学習と密接につながっています。

幼稚園等の遊びを通した学びの例として、以下のような活動が挙げられます。

- ① 遊具を使った遊び：滑り台、ブランコ、砂場など、遊具を通して身体を使った遊びを通じて、数や形、長さ、重さなどの概念を学ぶことができます。
- ② 積み木やブロックを使った遊び：積み木やブロックを使って、高さや長さ、面積などの概念を学ぶことができます。
- ③ 図形を使った遊び：紙や粘土を使って、丸、角、正方形などの図形を学ぶことができます。
- ④ 数の遊び：おはらいご、おはらいごの歌など、数の歌や遊びを通じて、数の概念を学ぶことができます。
- ⑤ 計算の遊び：おはらいごの歌など、数の歌や遊びを通じて、数の概念を学ぶことができます。

幼稚園等の遊びを通した学びは、小学校の算数科の学習と密接につながっています。幼稚園等の遊びを通した学びは、小学校の算数科の学習と密接につながっています。

小学校の
授業展開例



【算数科 数と計算】とのつながり

おおきいかず

幼児期の遊びを通した学びは、小学校の算数科の学習と密接につながっています。幼稚園等の遊びを通した学びは、小学校の算数科の学習と密接につながっています。

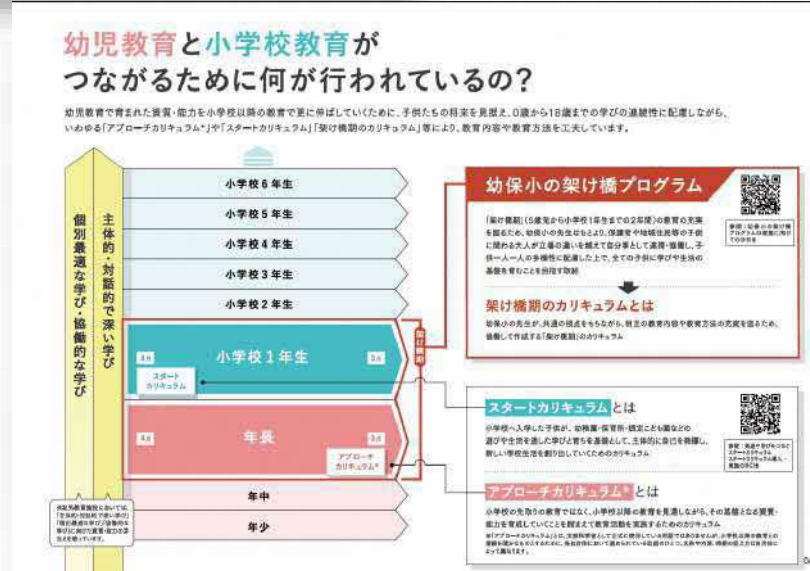
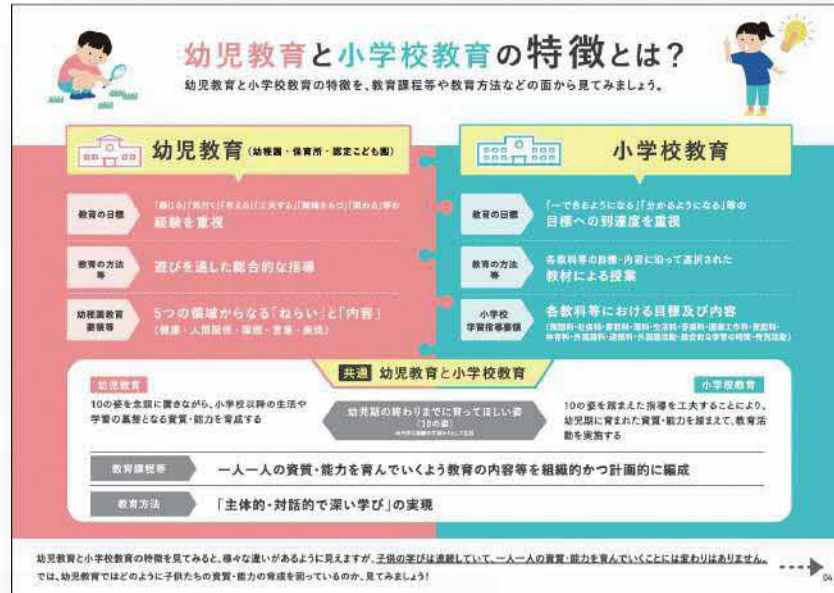
幼稚園等の遊びを通した学びの例として、以下のような活動が挙げられます。

- ① 遊具を使った遊び：滑り台、ブランコ、砂場など、遊具を通して身体を使った遊びを通じて、数や形、長さ、重さなどの概念を学ぶことができます。
- ② 積み木やブロックを使った遊び：積み木やブロックを使って、高さや長さ、面積などの概念を学ぶことができます。
- ③ 図形を使った遊び：紙や粘土を使って、丸、角、正方形などの図形を学ぶことができます。
- ④ 数の遊び：おはらいご、おはらいごの歌など、数の歌や遊びを通じて、数の概念を学ぶことができます。
- ⑤ 計算の遊び：おはらいごの歌など、数の歌や遊びを通じて、数の概念を学ぶことができます。

幼稚園等の遊びを通した学びは、小学校の算数科の学習と密接につながっています。幼稚園等の遊びを通した学びは、小学校の算数科の学習と密接につながっています。



幼児教育と小学校教育がつながっているってどういうこと？



幼児教育と小学校教育がつながっているってどういうこと？

幼保小の接続に取り組んでいる
または取り組もうとしている先生方からは



幼児期の遊びを通した学びが、小学校の各教科等の学びにどのようにつながっているのか、分からない。



スタートカリキュラムが終わってからも、幼児期の経験や学びを生かしながら、授業を展開していくにはどうしたらいいの？



幼児期の経験や学びが一人一人違い、身に付けるべき各教科等の内容も決まっているので、できることには限界がある。



幼児教育と小学校教育の特徴には、様々な違いがあるように見えますが、子供の学びは連続していて、一人一人の資質・能力を育んでいくことには変わりはありません。また、幼児期において皆が同じ経験をしてきているわけではありませんが、その多様な経験を引き出して共有するなど一人一人の経験を生かし組み合わせた授業を展開することで、よりよい学びを生み出していくことにつながります。

幼児教育と小学校教育がつながっているってどういうこと？

算数科

担当者からのメッセージ

お話

神戸市教育委員会事務局学校教育課

朝岡 悦子 先生

兵庫県加古郡播磨町立蓮池小学校

松井 恵子 先生

算数科の特徴

算数科は、実社会との関わりを意識し、「数学的な見方・考え方」を働かせながら資質・能力を育む教科です。

幼児は、遊びや生活の中で、数学的な見方・考え方に触れています。数学的な見方・考え方に触れるといっても、難しく考えることはありません。幼児の遊びや生活の中でよく見られる「全部でいくつある？」「誰のが多い？」「1箱に5個ずつ入れよう」といったやり取りは「数と計算」につながる視点です。「坂道でボールが転がる」「三角の積み木の上には積めない」といった体験を通して、「図形」の特徴を体得していきます。

幼児期に遊びの中で具体物を操作しながら多様な体験を積み重ねていくことが、小学校以降の数量や図形などについての基礎的・基本的な概念形成や性質などの理解の大きな支えとなります。そして、幼児期の一つ一つの体験が関連性をもち生かされていくことで、小学校での各教科等の確かな理解につながっていきます。

幼児期の遊びを通した学び

心を動かしながら身の回りのものに関わり、必要感をもって数えたり量を比べたり、様々な形に組み合わせたりして遊ぶことを通して多様な体験を積み重ねる中で、数や量、形などの感覚を身に付け、自らの遊びや生活に活用していきます。

具体的には…

- 収穫した野菜の大きさや集めた木の葉の量などに驚き、思わず数を数えたり、大きさを比べたり、友達と同じ数ずつ分け合ったりしている
- 積み木や空き箱、木の枝など、それぞれの形の特徴を捉えながら見立てたり組み合わせたりして、イメージに合わせて形をつくらせている
- 時計や携帯電話などの身近な道具に憧れをもち、つくったり遊びに活用したりしながら、生活に必要な時刻や時間に対する感覚をもちたり、数字などに親しんだりしている

執筆者

- ・幼児教育関係者と小学校教育関係者が共同で作成

各教科等の特徴

- ・各教科等において、どのような資質・能力を育成するか、どのような「見方・考え方」を働かせていくのかなど
- ・各教科等の特徴を踏まえ、幼児期の遊びの中にある学びが、小学校以降の各教科等の主体的・対話的で深い学びにつながる事など

幼児期の遊びを通した学び

- ・幼児期の遊びを通した各教科等につながる幼児期の学びの概要
- ・各教科等の学習内容へつながる具体的な場面

幼児教育と小学校教育がつながっているってどういうこと？

幼児期の遊びを通した学び

遊びを通した学び
友達と一緒にダンス…
「もったくさんの友達と一緒にしたい呀」「3人と3人でん」と、グループをつくる遊びを楽しみながら、人数が倍や半分になるという感覚を身に付けている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成
大好きな友達と手をつないでグループをつくる遊びでは、友達と関わりたい気持ちを大切に育みます。何人グループになっているか、何人なちやうどぴったりになるのかということを考える中で、数の感覚も身に付けていきます。

遊びを通した学び
竹馬に乗れたよ…
「乗れた！乗れた！」「かんぱれ！」「2、3、4…」と乗れたことを友達と喜び合う。まよに何学しているようになりたると、目標をもったり意欲が高まったりしている。

遊びを通した学び
花がいっぱい落ちていたよ…
「いっぱい落ちてきたよ」「バケツだとくべにいっぱいになる」と多いということが感覚的に分かり、「トラクがらいっぱい運べる」と身近にあるものを使い、工夫して遊んでいる。

算数科 数と計算 とのつながり

遊びを通した学び
リレーどっちが勝つか…
「1番は3点、2番は2点、3番は1点」「1回戦は3位だけ、2回戦で1位になりたると、2回戦の点数を使いながら点数を入れていくことで、同点になったり、逆転できたりすることに気付いている。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成
得点板を用意することで、得点が増えていくのが見て分かりやすく、勝敗を楽しみながら遊びを進めることができます。得点を競い合うことで、もっとがんばって走ろう、勝つための作戦を考えようという意欲にもつながっています。

遊びを通した学び
ジャガイモの収穫…
「みんなで分けよう」「何個あるのかな」「10個ずつ数えてみよう」とたくさんあるジャガイモを10個単位にして数える方法に気付いた。

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成
友達と等分するという必要感をもって、数量に関して身に付けた感覚を用いて、自分たちで相談しながら進めている様子を見守ります。皆で考えてまとまりで数えることのおよに気付いたことを個別付けます。

遊びを通した学び
ソラメを分けよう…
「みんなで分けよう」「二目…」と均等に分けるために、声に合わせてそれぞれ一つずつ取っていく方法を考え実行している。

幼児教育を通して育まれた10の姿

- 数量や図形、標識、文字への関心・感覚
- 思考力の芽生え

※ これらの活動は他にも「自然との関わり・生命現象」「健康な心と体」「自立心」「協同性」「豊かな感情と表現」などの領域とつながりますが、ここではあえて「数と計算」に深くつながるものだけを抜粋して記載しています。

↓

小学校の各教科等における資質・能力とのつながり

- 数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考える力
- よりよく数えたり比べたりする活動の中で、数のまとまりに着目し、10のまとまりをつくることや10といくつとみることなど、十進位取り記数法の素地となる力

遊びを通した学び

- ・園での活動の概要、子供のつばやきや様子（太字）、遊びを通して育まれている資質・能力の一例
- ※ ここで示した遊びを通した学びを通して育まれる資質・能力は、各教科等の学習内容の側面から見た一例

主体的な学びを引き出す保育者の援助と環境の構成

- ・一人一人の幼児が主体性を発揮して活動を展開していくための保育者の援助と環境の構成の一例
- ※ 必ずしも記載されている援助と環境の構成のみではない

幼児教育を通して育まれた10の姿

- ・学習指導要領の各教科等における内容と深くつながるものを抜粋して記載。

小学校の各教科等における資質・能力とのつながり

- ・遊びを通して育まれた資質・能力と各教科等の内容ごとの資質・能力とのつながり

幼児教育と小学校教育がつながっているってどういうこと？

単元名 おおきいかず **【算数科 数と計算】とのつながり**

幼児期の遊びを通した学び たくさん拾ったどんぐりを並べて大きな数を実感している。「20より多いかも」と量感をもちつつ、10ずつ分けて、数えようとしている。

目標	<p>【知識及び技能】 10のまとまりをつくり数える活動などを通して、十を単位として数の大きさを覚えることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 数のまとまりに着目し、数の大きさの数え方や比べ方を考える。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 具体物をもとめて数えたり、等分したりして数えし数えようと試行錯誤する。友達の様子を聞き、新たな疑問をもつ。</p>
学習計画	<p>①(本時) 十を単位とした数の見方を養う。</p> <p>②③④ 2位数の表し方について知り、数を単位の数にいくつ分と捉えたり画や具体物で表すことで数の大きさに基づいての感覚を養う。</p> <p>⑤⑥⑦ 100について知り、2位数の数の構成についての感覚を養う。</p> <p>⑧⑨ 100を超える数で120程度までの数直線3位数について理解を広げる。</p>

【授業展開例】

経験を想起 身の回りにあるものの個数を数目し、幼児期の遊びを振り返りながら個数の数え方に関心をもつ。

★生活科で育てたアサガサのタネを、新入生にプレゼントしたいけど自分の袋の中のアサガサのタネは、いくつあるかな？

- 袋の中に入っているのは、数えられない。
- 10より多いと思う。

★隣の生活の中などで、10より多い数を数えたことがありますか？うまくいった？難しかったことは、なかったかな？

- どんぐりをいっぱい拾って並べて数えたことがあるよ。
- 10くらいなら早く数えられるけど、多いと大変だった。

★そうなんだ。多いと難しいよね。先生も多いと数え間違えることあるよ。でも、10なら間違えずに数えられるね。

POINT 幼児期の遊びを踏まえた指導の工夫 幼児期における数を数えた経験の中で、できたことと難しかったことの方方を想起させる。難しかったことに大いに教師が共感し、授業展開につなげることで、算数科としての新しい見方の発見をより際立たせる。

タネは いくつ あるかな？

問いを焦点化 どのように数えると「確実に」数えられるか、考える。

★袋の中のタネは10より多いかな？ 何個か分からないね。

- 分かる！だって、11、12で数えたり早く分かるよ。
- 詳しい数を早く知りたい！
- 間違えることを少なく、確実に数えたい。
- 10ずつまとめていくと、分かりやすい。

POINT 幼児期の遊びを踏まえた指導の工夫 「数えられそうなの？」と教師は案に懸ける新入生で、幼児期の遊び方を生かした方法を児童が理解できるようにする。案に賛成と合意形成を図る声掛けで、児童の主体性を引き出していく。

やってみる 各々の数え方で、タネの個数を調べる。

★確実に数えられる方法を、みんなで見つけようね。どうやって数えたのが分かるように、先生がみんなの様子をタブレットの動画で撮っておきますね。それと、机の上のタネは、「こうやって数えたよ」と後でお話できるように、袋の中に残さないでね。

- ぼくは、1、2、3、4〜11、12と並べながら、続けて数えたよ。
- 10のまとまりが、3つありました。

POINT 幼児期の遊びを踏まえた指導の工夫 数えている様子を動画で見せるなど、10のまとまりをつくり数える場面と1、2、3と数えている様子を比較させながら、案一人一人の取付きを拾い上げ、数的な見方・考え方を養っていく。

試行を吟味 数え方を話し合う。よい点と課題について、全体共有する

★みんなよく数えられましたね。自分のやり方でよかったなと思うことと、ちょっと難しかったと感じたことと両方を教えてくれる？ 悩んだことは、大発見につながるんだよ。悩んでも教えてほしいな。

- 1、2、3…と数えていると本当にその数なのか、確かめられなくて困る。
- 10のまとまりをつくりおくと、後で見ても分かりやすいね。

POINT 幼児期の遊びを踏まえた指導の工夫 数えている様子を動画で見せるなど、10のまとまりをつくり数える場面と1、2、3と数えている様子を比較させながら、案一人一人の取付きを拾い上げ、数的な見方・考え方を養っていく。

発見する 10でまとめるよさについて共有する。

★まっすぐに並べた写真と、10のまとまりにして数えていた写真を黒板に貼り（もしくは、大型モニターに映す）しましたが、どうですか？ どちらが、30個あるってすぐ分かりますか？

- 10ずつの方が写真では分かりやすい。
- 写真がなくても、数字で表せるはず。

★困ったこともあったようですね。写真を見せなくても、数に分かるようにしたいね。

23

幼児期の遊びを通した学び

・各教科等の本単元等に関連する遊びを通して育まれてきた資質・能力

各教科の目標と学習計画等

・各教科等の単元等における目標と学習計画
※学習計画は、各教科等によって異なる

ポイント

・遊びを通した学びを生かす等の各教科等における指導の工夫

授業展開例

・幼児期の遊びを通して育まれた資質・能力を生かした授業展開例

・各活動において、教師と児童のやり取りを具体的に記載

・「タネは いくつ あるかな？」と本時のめあて（課題）を提示

幼児期及び幼保小接続期の教育に関する参考資料

「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」

作成協力者

幼児期及び幼保小接続期の教育の理解増進事業 実行委員

(敬称略・五十音順)

青木 一永	社会福祉法人樟橋会 副理事長
秋田 喜代美	学習院大学 教授 東京大学 名誉教授
伊藤 唯道	順正寺こども園 園長
大豆生田 啓友	玉川大学 教授
岡林 律子	いの町立伊野小学校 校長
田村 学	國學院大學 教授
無藤 隆	白梅学園大学 名誉教授
村地 和代	滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課 指導主事
渡邊 英則	港北幼稚園 園長 幼保連携型認定こども園ゆうゆうのもり保育園 園長

教科調査官等

(敬称略)

大塚 健太郎	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 (国語)
笠井 健一	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 (算数)
齋藤 博伸	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 (生活・総合的な学習の時間)
志民 一成	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 (音楽)
小林 恭代	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 (図画工作)
塩見 英樹	スポーツ庁政策課教科調査官 (体育)
堀田 竜次	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 (特別の教科 道徳)
安部 恭子	文部科学省初等中等教育局視学官・教育課程課教科調査官 (特別活動)
横山 真貴子	文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育調査官
平手 咲子	文部科学省初等中等教育局幼児教育課教科調査官 (幼児教育)

教員研修
(自治体主催)



園校による研修
(公開保育・授業参観等)



保護者会



入学説明会



就学時健診



**動画コンテンツ、冊子資料をきっかけにして、
園や小学校の具体的な子供の姿をお伝えください！**

參考資料②

「障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導」

(文部科学省・厚生労働省・内閣府著作 教師等用資料)

障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導

令和5年3月

文部科学省
厚生労働省 内閣府

『幼稚園における心身に障害のある幼児の指導のために』
(昭和62年文部省) を改訂 ■令和5年3月 文部科学省HP掲載

『幼稚園教育要領』等の基本的な考え方は変わらない
要領改訂を踏まえ内容を充実

【充実した内容の例】

- 幼児教育を行う中での障害のある幼児への指導の考え方
- 幼児教育におけるアセスメント
- 障害種ごとの基本的な理解と支援
- 教育支援の体制整備や専門機関との連携
- 個別の教育支援計画と個別の指導計画 など

第1章 幼児教育の基本

幼児教育の基本について記述

第2章 園における障害のある幼児などへの指導

幼児教育を行う中での障害のある幼児などへの指導を行う際の考え方などについて記述

第3章 障害のある幼児などへの指導における基本的な考え方

障害のある幼児などの合理的配慮、幼児教育におけるアセスメント、子育ての支援などの基本的な考え方について記述

第4章 障害に関する基本的な理解と障害のある幼児などの困難さに応じた支援の手立ての考え方

障害種ごとの基本的な理解と支援の手立などについて記述

第5章 教育支援の体制整備

体制整備の必要性、個別の教育支援計画と個別の指導計画、専門機関や保護者との連携、小学校への円滑な接続などについて記述

第6章 園における障害のある幼児などの支援の実際(実践事例)

障害のある幼児などへの指導の参考となるよう、具体的な事例を紹介

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1341233_00002.htm

－園児が心を寄せる環境の構成－

概要

幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本となる「**環境を通して行う教育及び保育**」の**基本的な考えや方法などについて解説**するとともに、**実践事例を示す**など、各園における**保育教諭等の園児への指導の参考**とするもの。【内閣府、文部科学省、厚労省】

➤ 認定こども園全ての類型を対象とするほか、幼稚園、保育所においても参考になるもの。



構成

【第1章】「環境を通して行う教育及び保育」の基本的な考え方

1. 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本
2. 「環境の構成」の意義
3. 園児の理解に基づいた評価と小学校教育との接続

➤ 「環境の構成の意義」や「計画的な環境の構成」、「幼保連携型認定こども園における教育及び保育において育みたい資質・能力」など、「環境を通して行う教育及び保育」の基本的な考え方や小学校教育との接続など



【第3章】園児の理解に基づいた「環境を通して行う教育及び保育」の実践事例（13事例）

➤ 園児の体験を豊かにする魅力のある環境の構成、多様な園児が過ごすことに配慮した環境の構成、など13の実践事例を紹介

【第2章】園児の理解に基づいて環境を構成するための具体的な考え方とポイント

1. 環境を構成するための具体的な考え方
2. 園児の理解を基に環境を構成していく際のポイント
3. 多様な園児が過ごすことに配慮した環境の構成

➤ 「園児の理解－指導計画の作成－環境の構成－活動の展開－評価」の循環の中で行われる教育及び保育において、その過程の中で大切にしたいポイントや具体的な手立てなど

➤ 指導計画を基に環境を構成していく際の考え方、保育教諭等が意図をもって環境を構成していくことの大切さや環境の再構成、教材研究などについて具体的に説明するなど、園児の理解に基づいて環境を構成していくための具体的な考え方やポイントなど



※本資料は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の3つの要領・指針の共通の内容である、満3歳児から5歳児を対象に作成したもの。

☞ 認定こども園等における園児への指導に関して

- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月改訂）【内閣府、文科省、厚労省】
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育及び保育の質の向上に向けた実践事例集」（令和2年4月）【内閣府】



「指導と評価に生かす記録」 (文部科学省著作 教師用資料)



『指導と評価に生かす記録』（平成25年7月改訂）を改訂

■令和3年12月 株式会社チャイルド本社より出版
文部科学省HP掲載

『幼稚園教育要領』の基本的な考え方は変わらない
従来の内容を継承しつつ、要領改訂を踏まえ充実

【充実した内容の例】

- 幼稚園において育みたい資質・能力及び
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続
- 教材研究

第1章 専門性を高めるための記録の在り方

幼児教育の特性とそれを踏まえた記録の重要性や
記録の意義と生かし方について記述

第2章 実践者のための記録の実際

様々な場面や状況に応じた具体的な記録の方法ついで紹介

第3章 記録を指導や評価の実際に生かす

記録を実際の指導場面や評価でどのように行い、活用するかについて具体的な事例に基づき紹介

URL : https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1341235.htm

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」 (文部科学省著作 教師用資料)



『指導計画の作成と保育の展開』（平成25年7月改訂）を改訂

■令和3年3月 株式会社チャイルド本社より出版 文部科学省HP掲載

『幼稚園教育要領』の基本的な考え方は変わらない
従来の内容を継承しつつ、要領改訂を踏まえ充実

【充実した内容の例】

- 幼稚園において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- カリキュラム・マネジメント
- 入園当初（特に満3歳児の入園）の配慮
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続
- 教材研究

第1章 指導計画作成に当たっての基本的な考え方

幼稚園教育において育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、指導計画の意義、小学校の教育課程との接続などについて記述

第3章 指導計画の作成と保育の実際

指導計画を作成する上での手掛かりとなるように、長期と短期の指導計画の視点や小学校教育との円滑な接続の視点から、具体的な事例を紹介

第2章 指導計画の作成の具体的な手順とポイント

指導計画の作成の具体的な手順やポイントなどについて記述

第4章 指導計画の評価・改善のポイントと実際

指導計画の評価・改善のポイントと具体的な事例を紹介

「幼児理解に基づいた評価」 (文部科学省著作 教師用資料)



『幼児理解と評価』（平成22年7月改訂）を改訂

■平成31年3月 株式会社チャイルド本社より出版 文部科学省HP掲載

『幼稚園教育要領』の基本的な考え方は変わらない
従来の内容を継承しつつ、要領改訂、幼稚園幼児指
導要録を踏まえ充実

【充実した内容の例】

- 幼稚園において育みたい資質・能力及び
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- よりよい指導につながる記録の生かし方
- 日々の記録からの指導要録

第1章 幼児理解に基づいた評価の意義

幼児理解と評価の基本的な考え方、よりよい保育をつくり出すために押さえておきたい基本的なことなどについて記述

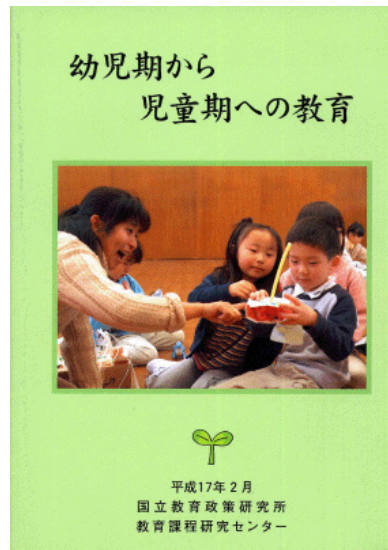
第2章 幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方

幼児理解と評価を実施する上で求められる教師の姿勢や実施上の配慮事項、園全体で幼児理解を深めよりよい指導に生かしていく考え方について記述

第3章 幼児理解に基づいた評価の実際（実践事例）

各幼稚園が幼児理解に基づいた評価を実施していくための手掛かりとなるようにいくつかの具体的な事例を紹介

「幼児期から児童期への教育」 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター著作 教師用資料)



■平成17年2月 ひかりのくに株式会社より出版
国立教育政策研究所HP紹介

幼稚園と小学校との連携・接続をスムーズに行なうために、各幼稚園において、幼児期から児童期への教育を意識しながら適切な教育課程を編成し、実施する上での基本的な考え方と、実践事例を紹介した指導資料

序章 指導資料作成の趣旨

幼児期から児童期への教育についての基本的な事項を示し、指導資料作成の趣旨について記述

第1章 幼稚園教育に期待されること

幼稚園教育に期待されることについて、①生活を豊かにし人間関係を深めること、②小学校以降の生活や学習の基盤をつくることの2つの視点から記述

第2章 幼児期から児童期への教育を豊かにする視点

幼児期から児童期への教育を豊かにする視点として、①生活の連続性、②教材研究、③伝え合い、④協同性、⑤小学校との連携、⑥家庭との連携の6つを記述

第3章 実践事例

幼児期から児童期への発達の流れを幼稚園生活に沿って大きく3つの時期にわけ、それぞれの時期の特徴を捉えた19の実践事例を紹介

「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」 (文部科学省著作 教師用資料)



■平成13年6月 ひかりのくに株式会社より出版

学校教育においては、幼稚園段階から高等学校段階まで、発達段階に応じて道徳教育が行われている。幼稚園において道徳性の芽生えを培うために、教師一人一人が理解を深めておくべき事項について、道徳性の発達、教師が指導する際の配慮、指導計画作成、道徳性の芽生えにつながる幼児の姿と教師の関わりの事例など、幅広い角度から記述

第1章 道徳性の芽生えを培うための指導の基本的考え方

幼乳児期から幼児期にかけての道徳性の発達に関わる基盤とその発達を促すものは何かなど、乳幼児期における道徳性の発達についての基本的な考え方について記述

第2章 道徳性の芽生えを培うための指導と指導計画作成の手掛かり

各幼稚園における道徳性の芽生えを培うための指導の配慮事項、及び幼児が人やものとの関わりを深めながら充実した幼稚園生活を展開する中で、道徳性の発達を促す様々な経験を積み重ねていくための指導計画作成の手掛かりを記述

第3章 道徳性の芽生えを培うための指導の実践事例 ～人間関係の広がり生きる喜び～

幼児期における道徳性の芽生えを培うための指導について具体的に考えていくために、どの幼稚園でも起こりうる日常的な出来事を事例として取り上げ、紹介